

本書の構成

本書をお読みになる前に

安全にお使いいただくための注意事項や、本書の表記について説明しています。必ずお読みください。

第1章 機能

本ワークステーションでお使いになれる機能について説明しています。

第2章 ソフトウェア

ソフトウェアのインストールについて説明しています。

第3章 トラブルシューティング

おかしいなと思ったときや、わからないことがあったときの対処方法について説明しています。

目次

本書をお読みになる前に	5
本書の表記	5

第1章 機能

1 セットアップ後	10
セットアップ後の設定	10
セットアップ用フロッピーディスクを用意する	10
ドライバのバックアップ	11
2 ディスプレイ関連	12
解像度と色数について	12
デュアルディスプレイ機能	13
3 通信	15
内蔵 LAN について	15
4 ドライブ関連	17
ドライブ構成	17
DMA の設定	18
仮想メモリを設定する	21
ファイルシステムについて	23
5 省電力	25
スタンバイと休止状態	25
省電力の設定	28
スタンバイ／休止状態にする	29
スタンバイまたは休止状態からのレジューム	30
ACPI のスタンバイモードを設定する	32
6 その他	34
Power Management for Windows	34

第2章 ソフトウェア

1 ソフトウェア一覧	36
各ソフトウェアの紹介	37
アンインストール方法	48
2 ドライバ	49
ドライバのバックアップ	50

第3章 ブラウジング

1 トラブルに備えて	54
テレビ／ラジオなどの受信障害防止について	54
Windows のセットアップ後に行ってください	54
データのバックアップ	55
コンピュータウイルス対策	55
ドキュメントの確認	56
2 トラブル発生時の基本操作	57
接続や電源スイッチを確認する	57
以前の状態に戻す	57
Safe モード／VGA モードで起動する	58
ハードウェアの競合を確認する	60
メッセージなどが表示されたらメモしておく	60
3 起動・終了時のトラブル	61
4 OS・アプリケーション関連のトラブル	63
5 ハードウェア関連のトラブル	67
BIOS	67
メモリ	67
内蔵 LAN	67
ハードディスク	72
CD-ROM	73
フロッピーディスク	74
光磁気ディスク	74
SCSI カード	75
ディスプレイ	75
サウンド	78
キーボード	78
マウス	79
プリンタ	80
その他	81
6 リカバリ／再インストール	82
リカバリ／再インストールを実行する前に	82
リカバリ／再インストール後も状態が改善されない場合は	82
7 それでも解決できないときは	83
ソフトウェアのお問い合わせ一覧	83
索引	85

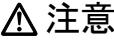
Memo

本書をお読みになる前に

本書の表記

■ 警告表示

本書では、いろいろな絵表示を使っています。これは装置を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々に加えられるおそれのある危害や損害を、未然に防止するための目印となるものです。その表示と意味は次のようになっています。内容をよくご理解のうえ、お読みください。

	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡する可能性または重傷を負う可能性があることを示しています。
	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性があること、および物的損害のみが発生する可能性があることを示しています。

また、危害や損害の内容がどのようなものかを示すために、上記の絵表示と同時に次の記号を使っています。

	△で示した記号は、警告・注意を促す内容であることを告げるものです。記号の中やその脇には、具体的な警告内容が示されています。
	○で示した記号は、してはいけない行為（禁止行為）であることを告げるものです。記号の中やその脇には、具体的な禁止内容が示されています。
	●で示した記号は、必ず従っていただく内容であることを告げるものです。記号の中やその脇には、具体的な指示内容が示されています。

■ 本文中の記号

本文中に記載されている記号には、次のような意味があります。

記号	意味
 重要	お使いになる際の注意点や、してはいけないことを記述しています。必ずお読みください。
 POINT	操作に関する記載を記載しています。必要に応じてお読みください。
→	参照ページや参照マニュアルを示しています。

■ キーの表記と操作方法

本文中のキーの表記は、キーボードに書かれているすべての文字を記述するのではなく、説明に必要な文字を次のように記述しています。

例：【Ctrl】キー、【Enter】キー、【→】キーなど

また、複数のキーを同時に押す場合には、次のように「+」でつないで表記しています。

例：【Ctrl】+【F3】キー、【Shift】+【↑】キーなど

■ コマンド入力（キー入力）

本文中では、コマンド入力を次のように表記しています。

diskcopy a: a:
↑ ↑

- ↑の箇所のように文字間隔を空けて表記している部分は、【space】キーを1回押してください。
また、上記のようなコマンド入力を英小文字で表記していますが、英大文字で入力してもかまいません。
- CD-ROM ドライブのドライブ名を、[CD-ROM ドライブ] で表記しています。入力の際は、お使いの環境に合わせて、ドライブ名を入力してください。

[CD-ROM ドライブ]:\\$setup.exe

■ 画面例およびイラストについて

表記されている画面およびイラストは一例です。お使いの機種によって、実際に表示される画面やイラスト、およびファイル名などが異なることがあります。また、このマニュアルに表記されているイラストは説明の都合上、本来接続されているケーブル類を省略していることがあります。

■ 連続する操作の表記

本文中の操作手順において、連続する操作手順を、「→」でつなげて記述しています。

例： 「スタート」ボタンをクリックし、「プログラム」をポイントし、「アクセサリ」をクリックする操作
↓
「スタート」ボタン→「プログラム」→「アクセサリ」の順にクリックします。

■ BIOS 設定の表記

本文中の BIOS の設定手順において、各メニュー やサブメニュー または項目を、「-」(ハイフン) でつなげて記述する場合があります。

例： 「Main」の「Boot Menu」の項目を「Enabled」に設定します。
↓
「Main」 - 「Boot Menu」: Enabled

■ お問い合わせ先／URL

本文中に記載されているお問い合わせ先や WWW の URL は 2002 年 6 月現在のものです。変更されている場合は、弊社担当営業員または担当保守員へお問い合わせください (→『取扱説明書』)。

■ カスタムメイドオプション

本文中の説明は、標準仕様に基づいて記載されている場合があります。

そのため、お使いのワークステーションがカスタムメイドオプションを取り付けている場合、本文中の説明と一部記載が異なる場合があります。

■ 製品の呼び方

本書に記載されている製品名称を、次のように略して表記します。
なお、本書ではお使いのOS以外の情報もありますが、ご了承ください。

製品名称	本文中の表記			
Microsoft® Windows® XP Professional	Windows XP Professional	Windows XP	Windows [※]	
Microsoft® Windows® 2000 Professional	Windows 2000			
Microsoft® Windows NT® Workstation Operating System Version 4.0	Windows NT			
Norton AntiVirus™ 2002	AntiVirus			
VERITAS RecordNow DX 4.0	RecordNow			
Adobe® Acrobat® Reader 5.0	Acrobat Reader			

※：Windows XP/2000/NT のように併記する場合があります。

■ 機種名表記

本文中の機種名を、次のように略して表記します。
なお、本書ではお使いの機種以外の情報もありますが、ご了承ください。

機種名	本文中の表記	
CELSIUS 330	CELSIUS 330	本ワークステーション ワークステーション本体
CELSIUS 340	CELSIUS 340	
CELSIUS 670	CELSIUS 670	

Microsoft、Windows、MS、MS-DOS、Windows NT は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。

Intel、Pentium は、米国インテル社の登録商標です。

その他の各製品名は、各社の商標、または登録商標です。

その他の各製品は、各社の著作物です。

All Rights Reserved, Copyright© FUJITSU LIMITED 2002

画面の使用に際して米国 Microsoft Corporation の許諾を得ています。

Memo

第1章

機能

本ワークステーションでお使いになれる機能について説明しています。

1 セットアップ後	10
2 ディスプレイ関連	12
3 通信	15
4 ドライブ関連	17
5 省電力	25
6 その他	34

1 セットアップ後

セットアップ終了後に必要な設定について説明しています。

セットアップ後の設定

Windows のセットアップ終了後、次の設定を行ってください。

セットアップ用フロッピーディスクを用意する

■ 対象機種／OS

CELSIUS 340/670 ／ Windows NT

■ 概要

「Windows NT Workstation Setup Disk 1～3」には、再インストール（→『取扱説明書』）に必要なファイルが含まれています。必ず用意してください。

次のものを用意してください。

- Windows NT Workstation Setup Disk 1～3（Windows NT の場合）
- セットアップ起動ディスクのラベル（別途購入してください）
- 1.44MB フォーマット済 2HD フロッピーディスク（別途購入してください）
 - ・ Windows NT の場合：3枚

■ Windows NT の場合

「Windows NT Workstation Setup Disk 1～3」を次の方法でコピーし、原本を保管用として普段はコピー（複製）を使用してください。

- 1 Windows を起動します。
- 2 添付されている「Windows NT Workstation Setup Disk 1」をセットします。
- 3 「マイコンピュータ」アイコンをダブルクリックします。
「マイコンピュータ」ウィンドウが表示されます。
- 4 「3.5 インチ FD (A:)」アイコンを右クリックし、「ディスクのコピー」をクリックします。
「ディスクのコピー」ウィンドウが表示されます。
- 5 コピー元とコピー先に「3.5 インチ FD (A:)」が選択されていることを確認し、「開始」をクリックします。
メッセージに従ってコピーを作成してください。

- 6** コピーが終了したら「閉じる」をクリックします。
- 7** コピーしたフロッピーディスクにラベルを貼り、書き込み禁止の状態にします。
ラベルには「Windows NT セットアップディスク 作業用」と記入し、お使いのワークステーションの機種名およびOS名を記入しておくことをお勧めします。

ドライバのバックアップ

Windows NT モデルでは、いくつかのドライバをドライバーズ CD からフロッピーディスクにバックアップする必要があります。作成したフロッピーディスクは再インストール時に必要となります。

作成方法は、「ドライバのバックアップ」(→ P.50) をご覧ください。

2 ディスプレイ関連

ディスプレイの設定について説明しています。

解像度と色数について

POINT

- ▶ 設定できる色数は、画面の解像度によって異なります。解像度を大きくすると、設定できる色数は少くなります。
- ▶ 解像度、色数の設定によっては、ディスプレイの調整が必要な場合があります。
- ▶ 画面の設定は、すべてのアプリケーションを終了させてから行ってください。
- ▶ お使いのディスプレイによっては、表示位置が左右にずれる場合があります。この場合は、ディスプレイの設定機能を使用して正しい位置に表示されるよう調整してください。詳しくは、ディスプレイの「取扱説明書」をご覧ください。
- ▶ お使いのディスプレイによっては、表示できない解像度があります。
表示可能な解像度以外の解像度ではお使いにならないでください。表示可能な解像度はディスプレイの「取扱説明書」でご確認ください。
- ▶ アプリケーションによっては、使用時の解像度や発色数が指定されていることがあります。必要に応じて変更してください。
なお、CELSIUS FireGL 8800、CELSIUS WildcatIII 6110 の場合、256 色の発色数は指定できません。
- ▶ Windows NT で解像度、色数、リフレッシュレートの変更を行い、「この新しい設定が正しいかどうかテストしていません。」という警告メッセージが表示された場合は、必ず「キャンセル」をクリックし、テストを行ってください。
- ▶ Windows NT でディスプレイの設定を変更する場合は、必ずテストを実行してから変更してください。
またテストビットマップの表示中は、マウスクリックおよびキーボード入力を行わないでください。画面の一部が正常に表示できなくなる場合があります。
もし、上記現象が発生した場合は、Windows を再起動してください。
テストせずにディスプレイの解像度や色数を変更して画面が表示されなくなった場合は、Windows を VGA モードで起動し、再度ディスプレイの解像度や色数を変更してください。

1 デスクトップで右クリックし、「プロパティ」をクリックします。

「画面のプロパティ」 ウィンドウが表示されます。

2 「設定」タブをクリックします。

設定項目が表示されます。

3 解像度、色数などを設定し、「OK」をクリックします。

「画面のプロパティ」 ウィンドウが表示されます。

4 「新しいデスクトップ設定を適用します。」と表示されたら「OK」をクリックします。

5 画面が正しく表示され、「デスクトップのサイズを変更しました。この設定を保存しますか？」が表示されたら、15 秒以内に「はい」をクリックします。不具合があった場合は「いいえ」をクリックします。

POINT

- ▶ 「いいえ」をクリックした場合は、次に表示されるウィンドウで「OK」をクリックし、手順3に戻り再度解像度などを選択します。

設定が有効になります。

■ 補足情報

「画面のプロパティ」ウィンドウ内には各ディスプレイアダプタごとに特有の設定項目がある場合があります。これらの設定項目については、各ディスプレイアダプタのプロパティ画面内のヘルプを参照してください。通常は初期設定値でご使用ください。

デュアルディスプレイ機能

本ワークステーションには、2台のディスプレイを接続／表示できる「デュアルディスプレイ機能」があります。

■ 対象

- Millennium G450 搭載モデル／WindowsXP/2000/NT
- CELSIUS FireGL 8800 搭載モデル／WindowsXP/2000/NT
- CELSIUS Quadro4 750XGL 搭載モデル／WindowsXP/2000/NT
- CELSIUS Quadro4 900XGL 搭載モデル／WindowsXP/2000/NT
- CELSIUS Wildcat III 6110 搭載モデル／WindowsXP/2000

■ 留意事項

- DVI-I コネクタにアナログディスプレイを接続する場合は、別途「DVI-VGA 変換アダプタ」を購入してください。
- CELSIUS Quadro4 900XGL／CELSIUS Wildcat III 6110以外では、デジタル接続のディスプレイを2台接続することはできません。
- Millennium G450でアナログディスプレイを2台接続する場合は、添付の「DVI-VGA 変換ケーブル」をお使いください。
- デュアルディスプレイ機能を使用すると、各グラフィックスカードの最大解像度を表示できなくなる場合があります。
- CELSIUS Wildcat III 6110 搭載モデルの Windows NT ではデュアルディスプレイ機能は未サポートです。

■ 用意する物

- DVI-VGA 変換ケーブル (Millennium G450 の場合)
- DVI-VGA 変換アダプタ (Millennium G450 以外で、アナログディスプレイを2台接続する場合)
- ディスプレイ

■ デュアルディスプレイ機能を設定する

□ Millennium G450 の場合

- 解像度／色数については「画面のプロパティ」－「設定」タブ上で行ってください。
- デュアルディスプレイの詳細設定は「xxxxx（接続されたディスプレイによって表示が異なります）と Matrox Millennium G450 DVI-Japanese のプロパティ」－「DualHead」タブで行ってください。
- 各項目の詳細は調べたい項目上で右クリックし、オンラインヘルプをご覧ください。
- 2台のディスプレイの解像度／色数／垂直同期は選択範囲内で個別に設定可能です。

□ CELSIUS FireGL 8800 の場合

- 解像度／色数については「画面のプロパティ」－「設定」タブ上で行ってください。
- デュアルディスプレイの詳細設定は「（マルチ モニタ）と ATI FireGL 8800 Video Accelerator のプロパティ」－「ATI DualScreen」タブで行ってください。
- 「（マルチモニタ）と ATI FireGL 8800 Video Accelerator のプロパティ」－「ATI DualScreen」タブ、「ATI モニタ」タブはディスプレイを2台接続すると表示されます。
- 各項目の詳細は調べたい項目上で右クリックし、オンラインヘルプをご覧ください。
- 2台のディスプレイの設定は同一解像度／色数／垂直同期となります。

□ CELSIUS Quadro4 900XGL/750XGL の場合

- 解像度／色数については「画面のプロパティ」－「設定」タブ上で行ってください。
- デュアルディスプレイの詳細設定は次のタブで行ってください。
 - CELSIUS Quadro4 900XGL の場合
「xxxxx（接続されたディスプレイによって表示が異なります）と NVIDIA Quadro4 900XGL のプロパティ」－「nVIEW」
 - CELSIUS Quadro4 750XGL の場合
「xxxxx（接続されたディスプレイによって表示が異なります）と NVIDIA Quadro4 750XGL のプロパティ」－「nVIEW」
- 各項目の詳細は調べたい項目上で右クリックし、オンラインヘルプをご覧ください。
- 2台のディスプレイを接続した場合、最初の起動時に「nVIDIA nVIEW ウィザード」ウインドウが表示されることがあります。この際に、画面の指示に従って、デュアルディスプレイの設定を行うことができます。
なお、すぐに設定を行わない場合は、「キャンセル」をクリックしてください。
- 2台のディスプレイの設定は同一解像度／色数／垂直同期となります。

□ CELSIUS Wildcat III 6110 の場合

- デュアルディスプレイ機能を有効にするときは「xxxxx（接続されたディスプレイによって表示が異なります）と 3Dlabs Wildcat III 6110 のプロパティ」－「Wildcat の構成」タブの「表示の最大数」で「2」を選択し、「OK」をクリックして本ワークステーションを再起動してください。
またデュアルディスプレイ機能を無効にするときは「表示の最大数」で「1」を選択し、「OK」をクリックして本ワークステーションを再起動してください。
- デュアルディスプレイの詳細設定は「画面のプロパティ」－「設定」タブで行ってください。
- 各項目の詳細は調べたい項目上で右クリックし、オンラインヘルプをご覧ください。
- 2台のディスプレイの解像度／色数／垂直同期は選択範囲内で個別に設定可能です。

3 通信

LAN など、通信関連について説明しています。

内蔵 LAN について

Windows セットアップ後に、お使いのネットワーク環境に合わせて、設定を行ってください。

■ LAN を接続する

LAN デバイスが内蔵されています。100BASE-TX による IEEE802.3u に準拠した高速 LAN システムへ接続することができます。また、従来の 10BASE-T による LAN システムへ接続することも可能です。

△ 警告



- LAN ケーブルを接続する場合は、必ずワークステーション本体の電源を切り、AC アダプタを取り外してください。感電の原因となります。
- 近くで雷が起きたときは、ワークステーション本体の電源を切り、AC アダプタや LAN ケーブルを取り外してください。
そのまま使用すると、雷によっては本ワークステーションを破壊し、火災の原因となります。

△ 注意



- LAN コネクタに指などを入れないでください。
感電の原因となることがあります。



- LAN ケーブルを接続する場合は、必ず LAN コネクタに接続してください。
故障の原因となることがあります。

- 1 ワークステーション本体の電源を切ります (→『取扱説明書』)。
- 2 ワークステーション本体の LAN コネクタ (→「各部名称」 - 「各部の名称と働き」) とネットワークを、LAN ケーブルで接続します。

■ Windows NT の設定

□ 対象機種／OS

CELSIUS 340/670 / Windows NT

□ 概要

LAN ケーブルを接続し、お使いの環境に合わせて設定を行ってください。また、CELSIUS 340 では「ドライバーズ CD」内の README.TXT もあわせてご覧ください。

- CELSIUS 340 : ¥Lan¥I8255x¥NT¥disk1¥readme.txt

POINT

- ▶ ネットワークの設定を行うときに、「Windows NT Workstation 4.0 Disc1」の CD-ROM を要求される場合があります。このときは、ファイル名のところに直接「c:\support\i386」と入力してください。「参照」は押さないでください。

本ワークステーションは DHCP を使用するように設定されています。このため、DHCP サーバーが存在しない環境では、次の現象が発生する場合があります。

- ・起動時に一部動作が遅くなる
 - ・「DHCP クライアントは IP アドレスを取得できませんでした」とメッセージが表示される
- この現象を回避するためにネットワークの設定を変更する必要がある場合には、「トラブルシューティング」 - 「内蔵 LAN」(→ P.67) をご覧ください。

POINT

- ▶ ドライバやネットワークの設定を変更した場合は、Windows NT Service Pack6a をインストールしてください。(→ P.38)。

4 ドライブ関連

ドライブ関連について説明しています。

ドライブ構成

FATをNTFSに変換する方法については、「ファイルシステムについて」(→P.23)をご覧ください。

■ Windows XP の場合

ドライブ	容量	備考
C	約 15.6GB	NTFS
D	〔総容量〕 - 〔C ドライブの容量〕	NTFS
E	CD-ROM (CD-R/RW [※]) ドライブ	
F	光磁気ディスクドライブ	カスタムメイドオプション

※ : カスタムメイドオプションの場合は CD-R/RW ドライブ

■ Windows 2000 の場合

ドライブ	容量	備考
C	約 16GB	FAT32
D	〔総容量〕 - 〔C ドライブの容量〕	NTFS
E	CD-ROM (CD-R/RW [※]) ドライブ	
F	光磁気ディスクドライブ	カスタムメイドオプション

※ : カスタムメイドオプションの場合は CD-R/RW ドライブ

■ Windows NT の場合

ドライブ	容量	備考
C	約 4GB	FAT (FAT16)
D	〔総容量〕 - 〔C ドライブの容量〕	NTFS
E	CD-ROM (CD-R/RW [※]) ドライブ	
F	光磁気ディスクドライブ	カスタムメイドオプション

※ : カスタムメイドオプションの場合は CD-R/RW ドライブ

POINT

▶ Windows 2000/NT の場合

光磁気ディスク媒体に 2 つ以上の区画がある場合は、2 つ目以降の区画にドライブ割り当てが必要です。ドライブの割り当てを行ってください。

- ・ Windows NT : 光磁気ディスクユーティリティ
- ・ Windows 2000 : 「コンピュータの管理」 - 「ディスクの管理」

DMA の設定

■ Windows XP/2000 の場合

□ DMA 設定対応表

デバイス	プライマリ		セカンダリ	
	0	1	0	1
CELSIUS 330	●	—	●	—
CELSIUS 340	●	●	○	○
CELSIUS 670	●	●	○	○

● : ご購入時 DMA 設定

○ : DMA 設定可

✗ : DMA 設定不可

— : 増設不可

□ 留意事項

DMA 転送をサポートしていないドライブを接続して DMA を設定した場合、正常な動作が保証されません。

□ DMA の設定方法

● CELSIUS 330 の場合

- 1 次の操作を行います。
●「スタート」ボタン→「プログラム」→「Intel Ultra ATA Storage Driver」→「Companion」の順にクリックします。
「Intel Ultra ATA Companion」が起動されます。
- 2 「デバイスパラメータ」タグの左側「デバイス」内の「プライマリチャネル」か「セカンダリチャネル」の下にある「デバイス名」をクリックします。
「デバイス名」は装置によって異なります。
- 3 右側「パラメータ」にある「転送モードの限界値」をダブルクリックします。
「値の編集」ウィンドウが表示されます。「パラメータデータ」の値を次の表に従って設定してください。

POINT

- ▶ 転送モードの設定は、本ドライバをインストールしたあと、「Intel Ultra ATA Companion」をお使いください。「システムのプロパティ」での転送モード設定は無効になります。

プライマリ IDE	セカンダリ IDE
ハードディスクドライブ：無限	CD-ROM ドライブ : UDMA-2
	CD-R/RW ドライブ : UDMA-2

- 4 「Intel Ultra ATA Companion」ウィンドウの「ファイル」から「今すぐ変更を確定する」をクリックします。
「システムを今すぐ再起動しますか？」とメッセージが表示されます。

5 「はい」をクリックします。

本ワークステーションが再起動されます。

 **POINT**

- ▶ 本ワークステーションにてセカンダリIDEにDMAを設定している場合(出荷時設定:UDMA-2)、「イベントビューア」に以下のエラーがまれに記録されることがあります。

- ・ イベントID: 11

- ・ ソース: Cdrom

- ・ 種類: エラー

- ・ 説明: ドライバは ¥Device¥CdRom0 でコントローラエラーを検出しました。

この場合、次の方法で回避することができます。

1. 「スタート」ボタン→「プログラム」→「Intel Ultra ATA Storage Driver」→「Companion」の順にクリックします。

「Intel Ultra ATA Companion」が起動されます。

2. 「デバイスパラメータ」タブの左側にある「デバイス」内の「セカンダリチャネル」以下の「マスタ」に表示されているデバイス名(CD-ROMドライブ)をダブルクリックします。

3. 「デバイスパラメータ」タブの右側にある「パラメータ」内の「転送モードの限界値」をクリックします。

「値の編集」ウインドウが表示されます。

4. 「パラメータデータ」の値を「PIO-4」に変更し、「OK」をクリックします。

5. 「ファイル」→「今すぐ変更を確定する」の順にクリックします。

再起動メッセージが表示されます。

6. 「はい」をクリックします

本ワークステーションが自動的に再起動します。

以上で設定は完了です。

● CELSIUS 340/670 の場合

1 Windows XP では「スタート」ボタンをクリックします。**2 「マイコンピュータ」アイコンを右クリックし、「プロパティ」をクリックします。**

「システムのプロパティ」ウインドウが表示されます。

3 「ハードウェア」タブの「デバイスマネージャ」をクリックします。**4 「IDE ATA/ATAPI コントローラ」をダブルクリックします。****5 「セカンダリIDEチャネル」または「プライマリIDEチャネル」を右クリックし、「プロパティ」をクリックします。****6 「プライマリ(またはセカンダリ)IDEチャネルのプロパティ」ウインドウの「詳細設定」タブをクリックします。****7 「DMAの設定」の表を参照して設定を変更し、「OK」をクリックします。**

■ Windows NT の場合

□ DMA 設定対応表

デバイス	プライマリ		セカンダリ	
	マスター	スレーブ	マスター	スレーブ
CELSIUS 340	●	●	○	○
CELSIUS 670	●	●	○	○

● : ご購入時 DMA 設定

○ : DMA 設定可

× : DMA 設定不可

- : 増設不可

□ 留意事項

- DMA の設定は、チャネル 0 (プライマリ IDE)、チャネル 1 (セカンダリ IDE) の単位で行われます。
- DMA 転送をサポートしていないドライブを接続して DMA を設定した場合、正常な動作が保証されません。

□ DMA の設定方法

- CELSIUS 340/670 の場合

1 「スタート」ボタン→「ファイル名を指定して実行」の順にクリックします。

2 「名前」に次のように入力し、「OK」をクリックします。

c:\\$support\\$sp\\$dmacheck.exe

「ATAPI DMA サポート」 ウィンドウが表示されます。

3 「DMA 検出状態」で「有効」をクリックし、「OK」をクリックします。

「警告」 ウィンドウが表示されます。

4 「はい」をクリックします。

「完了」 ウィンドウが表示されます。

5 「OK」をクリックします。

以上で設定は終了です。再起動すると、DMA が有効になります。

設定が有効になっているかどうかを確認するには、再度 dmacheck.exe を起動します。

仮想メモリを設定する

ここでは、仮想メモリ（ページングファイル）の設定方法を説明します。

仮想メモリの設定を行うには、仮想メモリの「最大サイズ」分の空き容量がハードディスクに必要です。本体搭載メモリ容量が大きい場合などに、選択したドライブに十分な空き容量がないときは、別のドライブに設定を行ってください。

ただし、ブートパーティション以外に設定する場合、あるいはページングファイルサイズが小さい場合は、メモリダンプをファイルに出力できなくなります。ダンプファイルを取得する場合は、システムドライブに最低でも物理メモリ + 1MB（仮想メモリの容量は含まず）の容量が必要です。

■ 対応機種／OS

全機種／Windows XP/2000/NT

■ 設定方法

POINT

- ▶ 搭載メモリサイズによっては、推奨サイズを設定できない場合があります。その場合は、パーティションタイプを変更するか、ブートパーティション以外のパーティションに設定してください。

ファイル形式	ファイルサイズ上限	備考
FAT16	2GB	Windows NT モデル出荷時ブートパーティション
FAT32	4GB	Windows 2000 モデル出荷時ブートパーティション
NTFS	パーティションサイズと同じ	Windows XP モデル出荷時ブートパーティション

□ Windows XP の場合

仮想メモリの推奨値は、次のとおりです。

初期サイズ：本体搭載メモリの 1.5 倍

最大サイズ：初期サイズの 2 倍

- 1 管理者権限を持ったユーザーとしてログオンします。
- 2 「スタート」ボタンをクリックします。
- 3 「マイコンピュータ」アイコンを右クリックし、「プロパティ」をクリックします。
「システムのプロパティ」ウィンドウが表示されます。
- 4 「詳細設定」タブをクリックし、「パフォーマンス」の「設定」をクリックします。
「パフォーマンスオプション」ウィンドウが表示されます。
- 5 「詳細設定」タブをクリックし、「仮想メモリ」の「変更」をクリックします。
「仮想メモリ」ウィンドウが表示されます。

- 6 ページングファイルが保存されているドライブを変更する場合は、「ドライブ」の一覧で変更するドライブをクリックします。
システムドライブに十分な空き容量がある場合は、ドライブの変更は必要ありません。
- 7 「選択したドライブのページングファイルサイズ」の「初期サイズ」または「最大サイズ」を適切な値に変更し、「設定」をクリックします。
- 8 「OK」をクリックします。
- 9 本ワークステーションを再起動します。

□ Windows 2000 の場合

仮想メモリの推奨値は、次のとおりです。

初期サイズ：本体搭載メモリの 1.5 倍

最大サイズ：初期サイズの 2 倍

- 1 管理者権限を持ったユーザーとしてログオンします。
- 2 「マイコンピュータ」アイコンを右クリックし、「プロパティ」をクリックします。「システムのプロパティ」 ウィンドウが表示されます。
- 3 「詳細」タブをクリックし、「パフォーマンスオプション」をクリックします。「パフォーマンスオプション」 ウィンドウが表示されます。
- 4 「仮想メモリ」の「変更」をクリックします。
「仮想メモリ」 ウィンドウが表示されます。
- 5 ページングファイルが保存されているドライブを変更する場合は、「ドライブ」の一覧で変更するドライブをクリックします。
システムドライブに十分な空き容量がある場合は、ドライブの変更は必要ありません。
- 6 「選択したドライブのページングファイルサイズ」の「初期サイズ」または「最大サイズ」を適切な値に変更し、「設定」をクリックします。
- 7 「OK」をクリックします。
- 8 本ワークステーションを再起動します。

□ Windows NT の場合

仮想メモリの推奨値は、次のとおりです。

初期サイズ：本体搭載メモリ +11MB

最大サイズ：初期サイズ +50MB

- 1 管理者権限を持ったユーザーとしてログオンします。
- 2 「マイコンピュータ」アイコンを右クリックし、「プロパティ」をクリックします。「システムのプロパティ」 ウィンドウが表示されます。

- 3** 「パフォーマンス」タブをクリックし、「仮想メモリ」の「変更」をクリックします。
 「仮想メモリ」ウィンドウが表示されます。
- 4** ページングファイルが保存されているドライブを変更する場合は、「ドライブ」の一覧で変更するドライブをクリックします。
 システムドライブに十分な空き容量がある場合は、ドライブの変更は必要ありません。
- 5** 「選択したドライブのページングファイルサイズ」の「初期サイズ」または「最大サイズ」を適切な値に変更し、「設定」をクリックします。
- 6** 「OK」をクリックします。
- 7** 本ワークステーションを再起動します。

ファイルシステムについて

■ ファイルシステムの概要

ハードディスク上のシステムドライブは次のファイルシステムでフォーマットされています。

- Windows XP : NTFS
- Windows 2000 : FAT32
- Windows NT : FAT16

□ FAT16 と FAT32

FAT16 を選択した場合は最大 2GB までしかドライブを管理できません。2GB を超える領域を作成したい場合は FAT32 を使用します。

POINT

- ▶ Windows NT では、FAT16 で最大 4GB までのドライブを管理できます。
- ▶ Windows XP では、システムドライブ以外を FAT32 に設定することができますが、FAT32 にした場合、32GB 以上はサポートされません。

□ FAT と NTFS

FAT32 または、FAT16 から NTFS に変換することで、セキュリティや信頼性を強化できます。

POINT

- ▶ NTFS に変換した場合、Windows XP/2000、Windows NT 4.0 以外の OS からは、そのパーティションのファイルにアクセスできなくなります。

	Windows XP/2000	Windows NT 4.0	
		Service Pack4 以降	Service Pack3 以前
Windows XP/2000 の NTFS	○	○	×
Windows NT の NTFS	○	○	○
FAT32	○	×	×
FAT16	○	○	○

- ▶ すでに作成されているショートカットから、アプリケーションが起動できなくなる場合があります。このときは、ショートカットを削除し、再度作成してください。
- ▶ Windows NT の場合
 - ・2GB より大きく割り当てられた NTFS のパーティションに対しては、NTFS の圧縮機能は利用できません。利用するには、ディスクアドミニストレータなどを使用して 2GB 以下のパーティションを作成する必要があります。
- ▶ FAT32 をサポートしていない OS (MS-DOS や Windows NT 4.0 など) からは FAT32 でフォーマットしたハードディスクを認識できません。このため、MS-DOS で作成された起動フロッピーからインストールを行うアプリケーションの場合、インストールに失敗するなどの問題が発生することがあります。

■ ファイルシステムの変換方法

□ 対応 OS

Windows XP/2000/NT

□ 変換方法

ファイルシステムを FAT から NTFS に変換する方法を説明します。

一度ファイルシステムを NTFS に変換すると、FAT に戻すことはできません。Windows NT モデルで FAT に戻す場合は、リカバリを行ってください。

操作の前に管理者権限を持ったユーザーとしてログオンしておいてください。

1 次の操作を行います。

● Windows XP の場合

「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「アクセサリ」→「コマンドプロンプト」の順にクリックします。

● Windows 2000 の場合

「スタート」ボタン→「プログラム」→「アクセサリ」→「コマンドプロンプト」の順にクリックします。

● Windows NT の場合

「スタート」ボタン→「プログラム」→「コマンドプロンプト」の順にクリックします。
「コマンドプロンプト」ウィンドウが表示されます。

2 次のように入力し、【Enter】キーを押します。

`convert n: /fs:ntfs /v`

(n には、ファイルシステムを変換するドライブ名を指定します)

ブートパーティションを変換する場合は、次のメッセージが表示されます（ブートパーティションが C ドライブの場合）。

「ファイルシステムの種類は FATXX です。

CONVERT で C: ドライブへの排他的アクセスを実行できないため、現時点では変換できません。次回のシステム再起動時にドライブの変換をスケジュールしますか (Y/N)?」

3 【Y】キーを押し、【Enter】キーを押した後、Windows を再起動します。

このとき、Windows は 2 回再起動します。

5 省電力

省電力について説明しています。

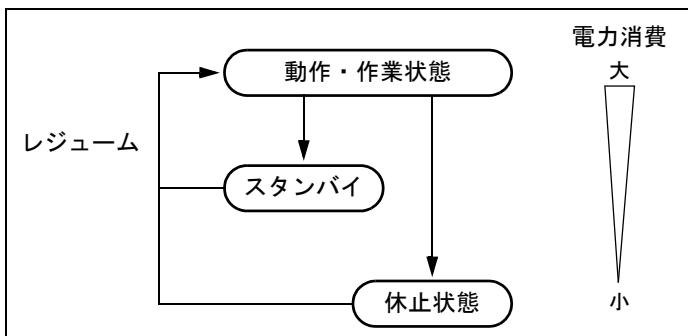
Windows XP/2000では、ご購入時はACPI(Advanced Configuration and Power Interface)モードに設定されています。

ここでは、ACPI モードに関する留意事項と、スタンバイモードの変更方法（→ P.32）を説明します。

Windows NT では省電力機能はお使いになれません。

スタンバイと休止状態

「スタンバイ」または「休止状態」を使用すると、Windows を終了しないで節電できます。



● スタンバイ

実行中のプログラムやデータを、システム RAM (メモリ) に保持してワークステーションの動作を中断させます。スタンバイ中は、電源ランプまたはスタンバイランプがオレンジ色に点灯します（→「各部名称」－「ワークステーション本体前面」）。「休止状態」よりも短い時間で、中断や回復（レジューム）を行うことができます。スタンバイ中は、わずかに電力を消費していて、電源は AC 電源から供給されます。

● 休止状態

実行中のプログラムやデータを、ハードディスクに書き込んで保存し、ワークステーション本体の電源を切ります。電源を自動的に切るため、「スタンバイ」よりも中断／回復（レジューム）にかかる時間が長くなります。なお、休止状態に入るようにするには、「電源オプションのプロパティ」または「電源の管理のプロパティ」 ウィンドウで設定する必要があります。

■ 留意事項

- ワークステーションをお使いの状況によっては、スタンバイや休止状態、レジュームに時間がかかる場合があります。
- スタンバイまたは休止状態にした後、すぐにレジュームしないでください。必ず、10 秒以上たってからレジュームするようにしてください。

- 電源スイッチなどで本ワークステーションをスタンバイにしても、まれにすぐにリジュームすることができます。その場合には、いったんマウスを動かしてから、再びスタンバイにしてください。
- 接続している周辺機器のドライバが正しくインストールされていない場合、スタンバイや休止状態にならないことがあります。
- スタンバイ時／休止状態移行時／リジューム時に、一時的に画面が乱れる場合があります。
- 次の状態でスタンバイに移行させると、スタンバイまたは休止状態にならない／スタンバイまたは休止状態からリジュームしない／リジューム後に正常に動作しない／データが消失する問題が発生することがあります。
 - ・ OS の起動処理中または終了処理中
 - ・ ワークステーションが何か処理をしている最中（プリンタ出力中など）、および処理完了直後
 - ・ ファイルアクセス中（フロッピーディスク、ハードディスク、CD-ROM ドライブや光磁気ディスクドライブのアクセスランプが点灯中）
 - ・ モデムやネットワークの通信中
 - ・ オートラン CD-ROM（セットすると自動で始まる CD-ROM）を使用中
 - ・ ビデオ CD や DVD-VIDEO などを再生中
 - ・ 音楽 CD やゲームソフトなどのサウンドを再生中
 - ・ サウンドや動画の再生中（MIDI/WAVE/AVI/MPEG/DAT 形式のファイルの再生中や音楽 CD の再生中）
 - ・ CD-R や CD-RW に書き込みまたは書き換え中
 - ・ ドライバのインストールが必要な周辺機器を接続しているが、対象のドライバのインストールが終了していないとき
 - ・ ネットワーク環境で TCP/IP プロトコル以外のプロトコルを使用中
 - ・ マウスの操作中
 - ・ ACPI に対応していない別売の機器（拡張カード、周辺機器）を増設している場合
- BIOS セットアップの省電力メニューの設定は、一部を除いて無効となります。各設定の詳細は、「BIOS」をご覧ください。
- CELSIUS 330/340 では高度な省電力モード（ACPI S3）をサポートすることにより、ご購入時の状態では、スタンバイ時の消費電力を数ワットにすることを実現しています。

事前に、接続する周辺機器が ACPI に対応しているか、また、ACPI S3 / ACPI S1 モード対応かを周辺機器のメーカーに確認してください。従来の周辺機器（プリンタ、USB 機器等）、または ACPI モードに対応していない周辺機器を接続すると、次の状態になる場合があります。

 - ・ 周辺機器が使用できない
 - ・ スタンバイ状態からリジュームできない
 - ・ 本体がスタンバイ状態から復帰した後に、正常に動作しない

上記の状態になった場合は、「ACPI のスタンバイモードを設定する」（→ P.32）をご覧になり、スタンバイモードを高度（ACPI S3）から標準（ACPI S1）に切り替えてお使いください。また、内蔵オプションについても、ACPI S3 モードに対応していない場合があります。同様に、スタンバイモードを標準（ACPI S1）に切り替えてお使いください。

なお、最新ドライバに変更することで ACPI に対応できる周辺機器もあります。詳細は周辺機器のメーカーに確認してください。
- PCI 拡張カードを増設する場合は、その拡張カードおよびドライバが「IRQ シェアリング（割り込みの共有）」をサポートしている必要があります。増設する PCI カードが IRQ シェアリングをサポートしているかどうかは、各 PCI カードメーカーに確認してください。

- ネットワーク環境によっては、省電力機能を使用できない場合があります。
- CD-ROM 読み込み中にスタンバイや休止状態に移行すると、レジューム時にエラーメッセージが表示される場合があります。この場合は、【Enter】キーを押してください。
- コマンドプロンプトを全画面表示で使用しているときにスタンバイに移行すると、スタンバイからレジュームしたときにコマンドプロンプトの全画面表示が解除されていることがあります。
この場合、タスクバーの「コマンドプロンプト」部分をクリックすると、全画面表示に戻ります。
- また、Windows 2000 では 【Alt】+【Enter】キーを押すと、コマンドプロンプトの全画面表示が解除され、画面の乱れがなくなります。
- ハードディスクに必要な空き容量がない場合、休止状態は使用できません。
- ネットワーク環境で LAN 着信によるレジューム（Wakeup on LAN 機能）を使用すると、ホストコンピュータまたは他のコンピュータからのアクセスにより、スタンバイまたは休止状態のコンピュータがレジュームする可能性があります。次の手順でタイマ値を設定することをお勧めします。なお設定値が 20 分より短いと、本ワークステーションがレジュームしてしまうことがあります。20 分以上の値に設定してください。
 1. 「電源オプションのプロパティ」または「電源の管理のプロパティ」ウィンドウを表示します（→ P.28）。
 2. 「電源設定」タブの「システムスタンバイ」および「システム休止状態」を「20 分後」以上に設定します。
- TCP/IP の設定で DHCP が有効の場合、スタンバイ時に DHCP サーバーから割り当てられた IP アドレスのリース期限が切れたとき、ワークステーション本体がレジュームすることができます。
この場合は、DHCP サーバーの IP アドレスのリース期間を延長するか、または DHCP の使用を中止し固定 IP をご使用ください。
- プリンタなどの周辺装置を接続した状態で休止状態にすると、レジューム時に周辺装置の情報が初期化されるため、中断する前の作業状態に戻らないことがあります。
- スタンバイまたは休止状態へ移行させるときは、手動（電源スイッチを押す、終了ウィンドウで「スタンバイ」または「休止状態」を選択する（→ P.29）、などの操作）ではなく次のように設定することをお勧めします。この設定を行うと、ファイルアクセス中や通信中などに省電力状態になってしまふことを回避できます。
 - ・「電源設定」タブの「システムスタンバイ」または「システム休止状態」で移行するまでの時間（例えば「30 分後」）を設定します。
- スタンバイへ移行する際、「デバイスのドライバが原因でスタンバイ状態に入れません。アプリケーションをすべて閉じてから、もう一度やり直してください。問題が解決しない場合は、そのドライバを更新することをお勧めします。」の警告ウィンドウが表示されて、スタンバイへ移行できない場合があります。これは、プログラムが動作中でスタンバイに入れない状態を示します。スタンバイへ移行させるためには、動作中のプログラムを終了してください。
- ネットワーク環境下で省電力機能を使用する場合、次の条件下では、使用するプロトコルやアプリケーションによっては、不具合（スタンバイおよび休止状態からの復帰時に正常に通信できないなど）が発生することがあります。
 - ・TCP/IP プロトコル以外のプロトコルを使用している場合
 - ・ネットワーク環境で通信中に、手動（電源スイッチを押す、終了ウィンドウで「スタンバイ」または「休止状態」を選択する（→ P.29）、などの操作）によりスタンバイおよび休止状態に移行した場合

- ・ネットワーク上でファイルの共有を設定し、手動（電源スイッチを押す、終了ウィンドウで「スタンバイ」または「休止状態」を選択する（→P.29）、などの操作）によりスタンバイへ移行したときに、次のメッセージが表示されて「はい」をクリックした場合「このコンピュータに接続しているユーザーが次のファイルを開いています。

XXXXXX(YYYYYY)

このまま続けるとファイルを閉じますが、ファイルを開いているユーザーはデータを失うかも知れません。続けますか？』

- 「電源オプションのプロパティ」または「電源の管理のプロパティ」ウィンドウにある「モニタの電源を切る」、「ハードディスクの電源を切る」の設定はネットワークに影響しません。
- 省電力設定は、ユーザー別に設定できます。このため、管理者権限を持ったユーザーでログオンした場合と他のユーザーでログオンした場合で設定が異なります。
必要に応じ、「コントロールパネル」ウィンドウ「電源オプション」で設定してください。
- OpenGLを使用したスクリーンセーバーが起動しているときには、スタンバイおよびシステム休止状態への移行はできません。

省電力の設定

■「電源オプションのプロパティ」または「電源の管理のプロパティ」の表示

本ワークステーションの電源を管理することができます。

1 次の操作を行います。

●Windows XP の場合

「スタート」ボタン→「コントロールパネル」の順にクリックします。

●Windows 2000 の場合

「スタート」ボタン→「設定」→「コントロールパネル」の順にクリックします。

「コントロールパネル」 ウィンドウが表示されます。

2 Windows XP では、「パフォーマンスとメンテナンス」をクリックします。

3 「電源オプション」または「電源の管理」をクリックまたはダブルクリックします。

「電源オプションのプロパティ」または「電源の管理のプロパティ」が表示されます。

■ 設定を変更する

お使いの状況に合わせて、各タブで設定を変更し、「適用」をクリックしてください。

□「電源設定」タブ

本ワークステーションの電源を入れた状態で一定時間使用しなかった場合に、省電力機能が働くまでの時間を設定します。

スタンバイするまでの時間は「システムスタンバイ」で設定してください。

「休止状態」タブで休止状態を選択した場合、休止状態までの時間は「システム休止状態」で設定してください。

□「詳細設定」または「詳細」タブ

電源スイッチを押したときの、ワークステーション本体の動作状態を設定します（ご購入時には、電源を切るように設定されています）。

次のように設定できます。

- 「コンピュータの電源ボタンを押したとき」
：電源スイッチを押したときの状態を設定できます。
- Windows XP：「スタンバイから回復するときにパスワードの入力を求める」
Windows 2000：「スタンバイ状態から回復するときにパスワードの入力を求める」
：スタンバイからリジュームするときにパスワードの入力を求めるメッセージを表示させる設定を行います。

□「休止状態」タブ

本ワークステーションを一時停止するときに、メモリ内のデータなどの保存先をハードディスクに変更するかどうかを設定します。

「休止状態」タブの「休止状態を有効にする」または「休止状態をサポートする」をチェックすると、「詳細設定」または「詳細」タブの「電源ボタン」の各項目で「休止状態」が選択できるようになります。

スタンバイ／休止状態にする

■終了ウィンドウを使う

終了ウィンドウを使用してスタンバイ／休止状態にする場合は、次の手順を行ってください。

POINT

- ▶ 「電源オプションのプロパティ」または「電源の管理のプロパティ」での設定が必要な場合があります（→P.28）。

1 「スタート」ボタンから次のメニューをクリックします。

Windows XP：「終了オプション」

Windows 2000：「シャットダウン」

2 「スタンバイ」または「休止状態」を選択します。Windows 2000 の場合は「OK」をクリックします。

しばらくすると各省電力状態に移行します。

POINT

- ▶ Windows XP の休止状態について
Windows XP の終了ウィンドウには、「休止状態」は表示されません。【Shift】キーを押すと、「スタンバイ」の項目が「休止状態」に変わります。
休止状態にする場合は、【Shift】キーを押しながら、「休止状態」を選択します。

スタンバイまたは休止状態からのレジューム

■ スタンバイおよび休止状態からのレジューム条件

ACPI モードの標準 (ACPI S1) / 高度 (ACPI S3) のスタンバイおよび休止状態から、次の表で○になっているレジューム要因で通常の状態にレジュームさせることができます。

□ CELSIUS 330

レジューム要因	ACPI モード標準 (ACPI S1)	ACPI モード高度 (ACPI S3)	休止状態 (ACPI S4)
電源スイッチ※1	○	○	○
PS/2 キーボード、PS/2 マウス※2	○※7	○	×
USB キーボード、USB マウス	○※8	○※9	×
時刻指定※2※3	○	○	○
LAN※2※4	○	○	○
モデム着信 (Ring Indicator 信号)※2※5	○	○	○
PCI 拡張カード (PME# 信号)※2※6	○	○	○

※ 1 : 「電源オプションのプロパティ」または「電源の管理のプロパティ」 - 「詳細設定」または「詳細」タブの「電源ボタン」の「コンピュータの電源ボタンを押したとき」を「シャットダウン」または「電源オフ」に設定した場合でも、電源スイッチを押すとスタンバイからレジュームします。

※ 2 : 標準 (ACPI S1) / 高度 (ACPI S3) のスタンバイから復帰したとき、レジュームは行われますが画面が表示されません。キーボードかマウスからの入力があると、画面が表示されます。

※ 3 : 「タスク」を使用した場合

※ 4 : 「デバイスマネージャ」 - 「ネットワークアダプタ」の LAN コントローラのプロパティの「電源の管理」タブの次の項目をチェックする必要があります。

■ Windows XP の場合

- ・「電力の節約のために、コンピュータでこのデバイスの電源をオフにできるようにする」
- ・「このデバイスで、コンピュータのスタンバイ状態を解除できるようにする」

■ Windows 2000 の場合

- ・「このデバイスで、コンピュータのスタンバイ状態を元に戻すことができるようになります」
 - ・「電力の節約のために、コンピュータでこのデバイスの電源をオフにできるようになります」
- また、BIOS 設定で「Power Management Setup」 - 「Wake Up by PCI Card」を Enabled (出荷時設定 : Disabled) にする必要があります。

※ 5 : 通信ソフトを起動し、着信待ち状態にしておく必要があります。

※ 6 : PME# 信号をサポートした PCI 拡張カード (PCI Revision 2.2 規格に準拠) を搭載した場合

※ 7 : 「デバイスマネージャ」 - 「キーボード」または「マウスとそのほかのポインティングデバイス」の PS/2 キーボードまたは PS/2 マウスのプロパティで「電源の管理」タブが表示される場合は、次の項目をチェックする必要があります。

- ・Windows XP : 「このデバイスで、コンピュータのスタンバイ状態を解除できるようになります」
- ・Windows 2000 : 「このデバイスで、コンピュータのスタンバイ状態を元に戻すことができるようになります」

※ 8 : 「デバイスマネージャ」 - 「キーボード」または「マウスとそのほかのポインティングデバイス」の USB キーボードまたは USB マウスのプロパティの「電源の管理」タブで次の項目をチェックする必要があります。

- ・Windows XP : 「このデバイスで、コンピュータのスタンバイ状態を解除できるようになります」
- ・Windows 2000 : 「このデバイスで、コンピュータのスタンバイ状態を元に戻すことができるようになります」

※ 9 : 「デバイスマネージャ」 - 「キーボード」または「マウスとそのほかのポインティングデバイス」の USB キーボードまたは USB マウスのプロパティの「電源の管理」タブで次の項目をチェックする必要があります。

- ・Windows XP : 「このデバイスで、コンピュータのスタンバイ状態を解除できるようになります」
- ・Windows 2000 : 「このデバイスで、コンピュータのスタンバイ状態を元に戻すことができるようになります」

また、BIOS 設定で「Power Management Setup」 - 「USB KB/Mouse Wake-up From S3」を Enabled (出荷時設定 : Enabled) にする必要があります。

□ CELSIUS 340

レジューム要因	ACPI モード標準 (ACPI S1)	ACPI モード高度 (ACPI S3)	休止状態 (ACPI S4)
電源スイッチ※1	○	○	○
PS/2 キーボード、PS/2 マウス※2	○※7	×	×
USB キーボード、USB マウス※2	○※8	○	×
時刻指定※2※3	○	○	○
LAN ※2※4	○	○	○
モデム着信(Ring Indicator 信号)※2※5	○	○	○
PCI 拡張カード (PME# 信号) ※2※6	○	○	○

※ 1 : 「電源オプションのプロパティ」または「電源の管理のプロパティ」－「詳細設定」または「詳細」タブの「電源ボタン」の「コンピュータの電源ボタンを押したとき」を「シャットダウン」または「電源オフ」に設定した場合でも、電源スイッチを押すとスタンバイからレジュームします。

※ 2 : 標準 (ACPI S1) / 高度 (ACPI S3) のスタンバイから復帰したとき、レジュームは行われますが画面が表示されません。キーボードかマウスからの入力があると、画面が表示されます。

※ 3 : 「タスク」を使用した場合

※ 4 : 「デバイスマネージャ」－「ネットワークアダプタ」の LAN コントローラのプロパティの「電源の管理」タブの次の項目をチェックする必要があります。

■ Windows XP の場合

- ・「電力の節約のために、コンピュータでこのデバイスの電源をオフにできるようにする」
- ・「このデバイスで、コンピュータのスタンバイ状態を解除できるようにする」

■ Windows 2000 の場合

- ・「このデバイスで、コンピュータのスタンバイ状態を元に戻すことができるようになる」
- ・「電力の節約のために、コンピュータでこのデバイスの電源をオフにできるようになる」

※ 5 : 通信ソフトを起動し、着信待ち状態にしておく必要があります。

※ 6 : PME# 信号をサポートした PCI 拡張カード (PCI Revision 2.2 規格に準拠) を搭載した場合

※ 7 : 「デバイスマネージャ」－「キーボード」または「マウスとそのほかのポインティングデバイス」の PS/2 キーボードまたは PS/2 マウスのプロパティで「電源の管理」タブが表示される場合は、次の項目をチェックする必要があります。

- ・Windows XP : 「このデバイスで、コンピュータのスタンバイ状態を解除できるようになる」
- ・Windows 2000 : 「このデバイスで、コンピュータのスタンバイ状態を元に戻すことができるようになる」

ただし、PS/2 キーボード、PS/2 マウスのどちらか一方でも上記項目をチェックすると、PS/2 キーボード、PS/2 マウスのどちらを使用してもスタンバイモードからレジュームします。

※ 8 : 「デバイスマネージャ」－「キーボード」または「マウスとそのほかのポインティングデバイス」の USB キーボードまたは USB マウスのプロパティの「電源の管理」タブで次の項目をチェックする必要があります。

- ・Windows XP : 「このデバイスで、コンピュータのスタンバイ状態を解除できるようになる」
- ・Windows 2000 : 「このデバイスで、コンピュータのスタンバイ状態を元に戻すことができるようになる」

□ CELSIUS 670

レジューム要因	ACPI モード標準 (ACPI S1)	休止状態 (ACPI S4)
電源スイッチ※1	○	○
PS/2 キーボード、PS/2 マウス	×	×
USB キーボード、USB マウス※2	○※7	×
時刻指定※2※3	○	○
LAN ※2※4	○	○
モデム着信(Ring Indicator 信号)※2※5	○	○
PCI 拡張カード (PME# 信号) ※2※6	○	○

※ 1 : 「電源オプションのプロパティ」または「電源の管理のプロパティ」－「詳細設定」または「詳細」タブの「電源ボタン」の「コンピュータの電源ボタンを押したとき」を「シャットダウン」または「電源オフ」に設定した場合でも、電源スイッチを押すとスタンバイからレジュームします。

※ 2 : 標準 (ACPI S1) のスタンバイから復帰したとき、レジュームは行われますが画面が表示されません。キーボードかマウスからの入力があると、画面が表示されます。

※ 3 : 「タスク」を使用した場合

※4 : 「デバイスマネージャ」 - 「ネットワークアダプタ」の LAN コントローラのプロパティの「電源の管理」タブの次の項目をチェックする必要があります。

■ Windows XP の場合

- ・「電力の節約のために、コンピュータでこのデバイスの電源をオフにできるようにする」
- ・「このデバイスで、コンピュータのスタンバイ状態を解除できるようにする」

■ Windows 2000 の場合

- ・「このデバイスで、コンピュータのスタンバイ状態を元に戻すことができるようになる」
- ・「電力の節約のために、コンピュータでこのデバイスの電源をオフにできるようになる」

※5 : 通信ソフトを起動し、着信待ち状態にしておく必要があります。

※6 : PME# 信号をサポートした PCI 拡張カード (PCI Revision 2.2 規格に準拠) を搭載した場合

※7 : 「デバイスマネージャ」 - 「キーボード」または「マウスとそのほかのポインティングデバイス」の USB キーボードまたは USB マウスのプロパティの「電源の管理」タブで次の項目をチェックする必要があります。

- ・Windows XP : 「このデバイスで、コンピュータのスタンバイ状態を解除できるようになる」
- ・Windows 2000 : 「このデバイスで、コンピュータのスタンバイ状態を元に戻すことができるようになる」

ACPI のスタンバイモードを設定する

■ 対応機種／OS

CELSIUS 330/340/670 / Windows XP/2000

POINT

- ▶ CELSIUS 670 では、標準 (ACPI S1) のみのサポートになります。

■ 概要

ACPI のスタンバイモードには、次の 2 種類があります。

- 高度 (ACPI S3) …メモリ以外の装置の動作を停止します。標準 (ACPI S1) と比較し、省電力に優れる一方でレジュームには時間がかかります。
- 標準 (ACPI S1) …CPU の動作を停止します。

CELSIUS 670 は標準 (ACPI S1) のみのサポートになります。

ご購入時、CELSIUS 330/340 は高度 (ACPI S3) に、CELSIUS 670 は標準 (ACPI S1) に設定されています。CELSIUS 330/340 でスタンバイモードを変更する方法は、次のとおりです。

POINT

- ▶ 増設する周辺機器は高度 (ACPI S3) に対応している必要があります。
対応していない周辺機器を接続する場合は、標準 (ACPI S1) に切り替えてお使いください。

■ スタンバイモードを高度から標準に変更する

- 1 BIOS セットアップで、スタンバイモードを標準 (ACPI S1) に設定します (→ 「BIOS」)。

● CELSIUS 330

「Power Management Setup」 - 「ACPI Suspend Type」 : S1(POS)

● CELSIUS 340

「Power」 - 「ACPI S3」 : Disabled

POINT

- ▶ 上記の操作を行うと、電源管理の設定がご購入時の状態に戻ります。設定を変更していた場合は、「電源オプションのプロパティ」または「電源の管理のプロパティ」で、再設定してください（→ P.28）。

■ スタンバイモードを標準から高度に変更する

標準から高度に変更するには、BIOS 設定を元に戻してください。

- 1 BIOS セットアップで、次の設定を変更します（→「BIOS」）。

● CELSIUS 330

「Power Management Setup」 — 「ACPI Suspend Type」 : S3(STR)

● CELSIUS 340

「Power」 — 「ACPI S3」 : Enabled

- 2 変更後、リカバリを実行します（→『取扱説明書』）。

POINT

- ▶ CELSIUS 340 の場合、次の内容に留意してください。
 「デバイスマネージャ」 — 「キーボード」または「マウスとそのほかのポインティングデバイス」の PS/2 キーボードまたは PS/2 マウスのプロパティの「電源の管理」タブで次の項目をチェックすると、BIOS 設定にかかわらず、スタンバイモードが標準 (ACPI S1) になります。
 - ・ Windows XP : 「このデバイスで、コンピュータのスタンバイ状態を解除できるようにする」
 - ・ Windows 2000 : 「このデバイスで、コンピュータのスタンバイ状態を元に戻すことができるようになる」

6 その他

Power Management for Windows

Power Management for Windows (PMAN) は、本ワークステーションの電源を制御するソフトウェアです。本ソフトウェアでは、「スケジュールによる電源の ON/OFF (自動シャットダウン)」、「LAN 経由によるリモート電源 ON/OFF」、「イベント連携」の機能を使用できます。PMAN はご購入時にインストールされていません。必要に応じてインストールしてください(→ P.46)。

■ PMAN の機能

本ワークステーションで使用できる機能は、以下のとおりです。

● スケジュール機能

カレンダスケジュールにより、ワークステーション電源の自動運転ができます。週間スケジュールの他、祝日、長期休暇などの特定日のスケジュールも可能です。スケジュールの設定は、「動作設定」を使用してください。

● リモート電源制御機能

本ワークステーションに搭載されている Wake on LAN 機能と連携し、ネットワーク上の他のワークステーションから LAN 経由で本ワークステーションの電源投入／切断（自動シャットダウン含む）を行うことができます。グループ指定（運用単位）により複数のワークステーションを一括して電源投入／切断することも可能です。

本機能を使用する場合は、別売の「Power Management for Windows (コンソール)」が必要です。設定を行う場合は、「Power Management for Windows (コンソール)」(別売) の「運用設定」を使用してください。

● イベント連携機能

通常起動時、通常終了時（シャットダウン時）のイベントごとにユーザープロセス（プログラム、コマンドなど）を指定できます。イベント発生とアプリケーションを連携させることが可能です。たとえば、通常停止（電源切断）のイベント発生時にファイルの退避を行うといったようなアプリケーションの実行も可能です。イベントの設定は、「動作設定」を使用してください。

POINT

- ▶ 本ソフトウェアを使用する場合、休止状態およびスタンバイ機能は使用しないでください。
- ▶ 「コントロールパネル」ウィンドウ「電源の管理」－「詳細タブ」－「電源ボタン」の設定が優先されるため、「電源スイッチによる自動シャットダウン機能」は使用できません。
- ▶ シャットダウンについて
本ソフトウェアでは、ワークステーションの強制シャットダウンは行いません。このため、シャットダウン時にアプリケーションの終了を確認してくるプログラムがある場合は、終了の確認画面が表示された状態でキー入力待ち状態になります。
- ▶ DHCP について（リモート電源制御機能使用時のみ）
本ソフトウェアは、DHCP プロトコルに対応していません。必ず、固定 IP アドレスを使用してください。
- ▶ スクリーンセーバーについて
本ソフトウェアを使用する場合、スクリーンセーバー名に「OpenGL」の表記があるスクリーンセーバーは使用しないでください。

第2章

ソフトウェア

ソフトウェアのインストールについて説明しています。

1 ソフトウェア一覧	36
2 ドライバ	49

1 ソフトウェア一覧

POINT

- ▶ 一部のソフトウェアの使用方法については、ヘルプまたは Readme.txt などの説明ファイルをご覧ください。
- ▶ 選択したカスタムメイドオプションによっては、この他にソフトウェアが添付されることもあります。
- ▶ 添付されているソフトウェアは「ドライバーズ CD」、「リカバリ CD-ROM」(Windows XP/2000) または各 OS の CD-ROM (Windows NT) などに格納されています。各ソフトウェアの紹介を参照してインストールしてください。

◎ : プレインストール（添付あり） ○ : プレインストール（添付なし） △ : 添付のみ － : 添付なし

名称	Windows XP	Windows 2000	Windows NT
Microsoft Windows XP Professional (→ P.37)	◎	－	－
Microsoft Windows 2000 Professional (Service Pack2) (→ P.37)	－	◎	－
Windows NT Workstation 4.0 (Service Pack6a) (→ P.38)	－	－	◎
セキュリティロールアップパッケージ (→ P.39)	－	○	－
セキュリティツールキット (→ P.39)	－	－	◎
電源切断ユーティリティ (→ P.41)	－	－	◎
Internet Explorer 5.01 SP2 (→ P.41)	－	○	◎
Internet Explorer 6.0 (→ P.41)	○	－	－
Microsoft IME スタンダード 2002 (→ P.42)	○	－	－
Microsoft IME2000 (→ P.42)	－	○	－
MS-IME97 (→ P.42)	－	－	○
DirectX8.1 (→ P.42)	○	○	－
Acrobat Reader (→ P.42)	◎	◎	◎
3モードフロッピーディスクドライブ (→ P.43)	◎	◎	◎
光磁気ディスク・ユーティリティ (→ P.43)	◎	◎	◎
光磁気ディスクイジェクトツール (→ P.44)	△	△	△
光磁気ディスクセキュリティツール (→ P.44)	△	△	△
RecordNow ^{※1} (→ P.45)	△	△	△
OS 追加プログラム (→ P.45)	○	○	－
AntiVirus (→ P.45)	△	△	△
Power MANagement for Windows (→ P.46)	△	△	△
FM-Menu (→ P.47)	△	△	△
@nifty でインターネット (→ P.47)	△	△	△

プレインストールソフトは、必要に応じてアンインストールしてください。

※1: カスタムメイドオプションで内蔵 CD-R/RW ドライブユニットを選択している場合

各ソフトウェアの紹介

POINT

- ▶ Windows XP では Windows 起動中に「ドライバーズ CD」、「リカバリ CD-ROM」などをセットすると、「Windows が実行する動作を選んでください」と表示されます。「キャンセル」をクリックしてください。

■ Microsoft Windows XP Professional

□ 概要

操作方法など詳細については、「スタート」メニューに登録されているオンラインヘルプか、添付されている『Microsoft Windows XP Professional ファーストステップガイド』をご覧ください。

□ 対象機種／OS

全機種／Windows XP Professional

■ Microsoft Windows 2000 Professional (Service Pack2)

□ 概要

「C:\Winnt」フォルダにインストールされています。操作方法など詳細については、「スタート」メニューに登録されているヘルプか、添付されている『Microsoft Windows 2000 Professional クイックスタートガイド』をご覧ください。

□ 対象機種／OS

全機種／Windows 2000

□ Service Pack2 のインストール方法

Windows 2000 Service Pack2 には、Windows 2000 に対する新しい修正、以前にリリースされた Service Pack の修正が含まれています。

インストールの前に管理者権限を持ったユーザーとしてログオンしておいてください。

1 「スタート」ボタン→「ファイル名を指定して実行」の順にクリックします。

2 「名前」に次のように入力し、「OK」をクリックします。

c:\support\sp\w2ksp2.exe

3 「使用許諾」を読み、「同意します」をクリックし、「次へ」をクリックします。

この後は、メッセージに従ってインストールを完了してください。

POINT

- ▶ Windows 2000 のバージョン情報は、次の手順で見ることができます。
 1. 「ヘルプ」メニュー→「バージョン情報」の順にクリックします。
 2. 「マイコンピュータ」アイコンをダブルクリックします。

■ Windows NT Workstation 4.0 (Service Pack6a)

□ 概要

「C:\Winnt」フォルダにインストールされています。操作方法など詳細については、「スタート」メニューに登録されているオンラインヘルプ、および添付の『Windows NT 4.0 ファーストステップガイド』をご覧ください。

□ 対象機種／OS

CELSIUS 340/670 / Windows NT

□ Service Pack6a のインストール方法

Windows NT Service Pack6a には、Windows NT に対する新しい修正、以前にリリースされた Service Pack の修正が含まれています。ドライバなどのインストール後や、ネットワークの設定を変更した場合は、Windows NT Service Pack6a をインストールしてください。

インストールの前に管理者権限を持ったユーザーとしてログオンしておいてください。

重要

- ▶ Service Pack6a をインストール後、必ず「セキュリティ ロールアップ パッケージ」(→ P.39) をインストールしてください。
- ▶ Internet Explorer 5.01 SP2がすでにインストールされている場合、ServicePack6a をインストールしようとするとエラーが発生します。この場合、一度 Internet Explorer 5.01 SP2 をアンインストールしてから、ServicePack6a をインストールしてください。
ServicePack6a のインストール後、再度 Internet Explorer 5.01 SP2 をインストールしてください。

1 「スタート」ボタン→「ファイル名を指定して実行」の順にクリックします。

2 「名前」に次のように入力し、「OK」をクリックします。

c:\support\sp\sp6i386.exe

「Windows NT Service Pack セットアップ」ウィンドウが表示されます。

3 「同意する」をチェックし、「インストール」をクリックします。

メッセージに従ってインストールを続けます。インストールが終了すると、再起動メッセージが表示されます。

4 「再起動」をクリックします。

POINT

- ▶ 上記の手順はご購入時の状態のままを想定しています。Windows NT を再インストールしている場合、『取扱説明書』をご覧ください。
- ▶ Windows のバージョン情報は、次の手順で見ることができます。
 1. 「マイコンピュータ」アイコンをダブルクリックします。
 2. 「ヘルプ」メニュー→「バージョン情報」の順にクリックします。
- ▶ 新しいドライバなどをインストールした後は、Service Pack6a を再度インストールしてください。

■ セキュリティ ロールアップ パッケージ

□ 概要

Windows 2000 用セキュリティの修正が含まれています。本パッケージを利用することで、容易にセキュリティ修正プログラムを導入することができます。また本パッケージを適用しても、コンピュータの暗号化レベルは変更されません。

重要

- ▶ Windows 2000 モデルをリカバリしたあとは、セキュリティロールアップパッケージが適用されていない状態になります。設定終了後、Windows Update を行い、最新のモジュールを適用することをお勧めします。
Windows Update を行うには、インターネットに繋がる環境で「スタート」メニュー→「Windows Update」の順にクリックし、Windows Update のページで「製品の更新」をクリックしてください。

□ 対象機種／OS

全機種／Windows 2000

■ セキュリティツールキット

□ 概要

Service Pack6a 以降にリリースされた Windows NT 用セキュリティの修正が含まれています。本パッケージを利用することで、容易にセキュリティ修正プログラムを導入することができます。また本セキュリティツールキットを導入しても、コンピュータの暗号レベルは変更されません。

□ 対象機種／OS

CELSIUS 340/670 ／ Windows NT

□ インストール方法

重要

- ▶ 「セキュリティツールキット」をインストールする前に、「Windows NT Service Pack6a」および「Internet Explorer 5.01 SP2」がインストールされている必要があります。
- ▶ 「セキュリティツールキット」のインストール後、「3 モードフロッピーディスクドライバ」をインストールしてください。

インストール前に管理者権限を持ったユーザーとしてログオンしておいてください。

1 ドライバーズ CD をセットします。

2 「スタート」ボタン→「ファイル名を指定して実行」の順にクリックします。

3 「名前」に次のように入力し、【Enter】キーを押します。

“[CD-ROM ドライブ]:¥os¥sectool¥security rollup package¥q29944i.exe”
しばらくすると、再起動メッセージが表示されます。

- 4 「OK」をクリックします。**
本ワークステーションが再起動します。
- 5 管理者権限を持ったユーザー アカウントでログオンします。**
- 6 「スタート」ボタン→「ファイル名を指定して実行」の順にクリックします。**
- 7 「名前」に次のように入力し、【Enter】キーを押します。**
[CD-ROM ドライブ]:¥os¥sectool¥hotfixes¥q305929i.exe
しばらくすると、再起動メッセージが表示されます。
- 8 「OK」をクリックします。**
本ワークステーションが再起動します。
- 9 管理者権限を持ったユーザー アカウントでログオンします。**
- 10 「スタート」ボタン→「ファイル名を指定して実行」の順にクリックします。**
- 11 「名前」に次のように入力し、【Enter】キーを押します。**
[CD-ROM ドライブ]:¥os¥sectool¥hotfixes¥q307866i.exe
- 12 本ワークステーションを再起動します。**
- 13 管理者権限を持ったユーザー アカウントでログオンします。**
- 14 「スタート」ボタン→「ファイル名を指定して実行」の順にクリックします。**
- 15 「名前」に次のように入力し、【Enter】キーを押します。**
"[CD-ROM ドライブ]:¥os¥sectool¥windows media player\wm308567.exe"
「Windows Media Player Update」 ウィンドウが表示されます。
- 16 「はい」をクリックします。**
「使用許諾契約」が表示されます。
- 17 「はい」をクリックします。**
「Windows Media コンポーネントのセットアップ」 ウィンドウが表示されます。
- 18 「次へ」を3回クリックします。**
「セットアップは完了しました。」と表示されます。
- 19 「完了」をクリックします。**
- 20 本ワークステーションを再起動します。**
- 21 管理者権限を持ったユーザー アカウントでログオンします。**
- 22 「スタート」ボタン→「ファイル名を指定して実行」の順にクリックします。**

23 「名前」に次のように入力し、【Enter】キーを押します。

[CD-ROM ドライブ]:¥os¥sectool¥hotfixes¥q307866i.exe

24 本ワークステーションを再起動します。

■ 電源切断ユーティリティ

□ 概要

Windows NT シャットダウン時に自動的にワークステーション本体の電源を切るためのコンポーネントです。

□ 対象機種／OS

CELSIUS 340/670 ／ Windows NT

□ インストール方法

Windows NT の再インストール時に「電源切断ユーティリティ（HAL）」をインストールします。インストール方法については、『取扱説明書』をご覧ください。

■ Internet Explorer 5.01 SP2

□ 概要

WWW ブラウザです。

□ 対象機種／OS

全機種／Windows 2000/NT

□ インストール方法

Windows 2000/NT では、ご購入時には Internet Explorer 5.01 SP2 がインストールされています。Windows NT で再インストールを行う場合は、「ドライバーズ CD」の ¥os\Ie501\Ie5setup.exe を実行してください。

POINT

- ▶ Windows NT で Internet Explorer のインストールを行う場合は、Windows NT Service Pack6a のインストール後に行ってください。

■ Internet Explorer 6.0

□ 概要

WWW ブラウザです。

□ 対象機種／OS

全機種／Windows XP

■ Microsoft IME スタンダード 2002

□ 概要

日本語入力変換ユーティリティです。

□ 対象機種／OS

全機種／Windows XP

■ Microsoft IME2000

□ 概要

日本語入力変換ユーティリティです。

□ 対象機種／OS

全機種／Windows 2000

■ MS-IME97

□ 概要

日本語入力変換ユーティリティです。

□ 対象機種／OS

CELSIUS 340/670／Windows NT

■ DirectX8.1

□ 概要

マルチメディアの機能を拡張します。DirectX8.1 に対応したソフトウェアの高速表示／高品位音声再生を実現します。

□ 対象機種／OS

全機種／Windows XP/2000

■ Acrobat Reader

□ 概要

PDF (Portable Document Format) 書類を表示、閲覧、印刷できます。

□ 対象機種／OS

全機種／全 OS

□ インストール方法

インストールの前に管理者権限を持ったユーザーとしてログオンしておいてください。

POINT

- ▶ セットアップ中、「読み取り専用ファイルの検出」ウィンドウが表示された場合、「はい」をクリックして操作を進めてください。
- ▶ インストール後、再起動時にメッセージが表示される場合があります。動作上問題ありませんので、そのままお使いください。

- 1 「ドライバーズ CD」をセットします。
- 2 「スタート」ボタン→「ファイル名を指定して実行」の順にクリックします。
- 3 「名前」に次のように入力し、「OK」をクリックします。
[CD-ROM ドライブ]:¥acrobat¥ar505jpn.exe

この後は、メッセージに従って操作します。

■ 3 モードフロッピーディスクドライバ

□ 概要

次の DOS/V フォーマット済みのフロッピーディスクを読み書きできる 3 モード対応(1.44MB、1.23MB、1.2MB、720KB、640KB) のフロッピーディスクドライブ用のドライバです。

□ 対象機種／OS

CELSIUS 330/340／全 OS

□ インストール方法

Windows NT では、「3 モードフロッピーディスクドライバ」をインストールする前に、「セキュリティツールキット」(→ P.39) をインストールしてください。

■ 光磁気ディスク・ユーティリティ

□ 概要

光磁気ディスクのフォーマット、フォーマット／イジェクト権限の変更、ドライブ割り当てを行なうユーティリティです。

□ 対象機種／OS

- プレインストール
CELSIUS 340/670／全 OS
- 添付
CELSIUS 330／全 OS

□ インストール方法

インストールの前に Windows 2000/NT は管理者権限を持ったユーザーとしてログオンしてください。

- 1 「ドライバーズ CD」をセットします。
- 2 「スタート」ボタン→「ファイル名を指定して実行」の順にクリックします。

3 「名前」に次のように入力し、「OK」をクリックします。

● Windows XP の場合

[CD-ROM ドライブ] : ¥other¥mo¥driver¥xp¥mosupple.msi

● Windows 2000 の場合

[CD-ROM ドライブ] : ¥other¥mo¥driver¥2k¥mofORMAT.msi

● Windows NT の場合

[CD-ROM ドライブ] : ¥other¥mo¥driver¥nt¥setup.exe

この後は、メッセージに従って操作します。

■ 光磁気ディスクイジェクトツール

□ 概要

光磁気ディスクイジェクトツールを利用することで、シャットダウン / 再起動 / スタンバイ / 休止状態 / ログオフ時の光磁気ディスク排出動作を設定することができます。

□ 対象機種／OS

全機種／全 OS

□ インストール方法

インストールの前に管理者権限を持ったユーザーとしてログオンしておいてください。

1 「ドライバーズ CD」をセットします。

2 「スタート」ボタン→「ファイル名を指定して実行」の順にクリックします。

3 「名前」に次のように入力し、「OK」をクリックします。

[CD-ROM ドライブ] : ¥other¥mo¥eject¥nt_2k_xp¥setup.exe

この後は、メッセージに従って操作します。

■ 光磁気ディスクセキュリティーツール

□ 概要

アクセス制御機能により、MO ディスクのユーザデータを保護することができます。

□ 対象機種／OS

セキュリティ対応光磁気ディスク装置が搭載されている機種／全 OS

□ インストール方法

インストールの前に管理者権限を持ったユーザーとしてログオンしておいてください。

1 「ドライバーズ CD」をセットします。

2 「スタート」ボタン→「ファイル名を指定して実行」の順にクリックします。

3 「名前」に次のように入力し、「OK」をクリックします。

- Windows XP の場合

[CD-ROM ドライブ]:¥other¥mo¥security¥xp¥setup.exe

- Windows 2000 の場合

[CD-ROM ドライブ]:¥other¥mo¥security¥9x_2k_me¥setup.exe

- Windows NT の場合

[CD-ROM ドライブ]:¥other¥mo¥security¥nt¥setup.exe

この後は、メッセージに従って操作します。

■ RecordNow

□ 概要

データ CD や音楽 CD を作成するためのアプリケーションです。使用方法はアプリケーション内のヘルプをご覧ください。

□ 対象機種／OS

カスタムメイドオプションで、内蔵 CD-R/RW ドライブユニットが搭載されている機種／全 OS

□ インストール方法

インストール方法については、添付の「RecordNow」CD-ROM 内の PDF マニュアルをご覧ください。

■ OS 追加プログラム

□ 概要

次の修正プログラムがインストールされています。

- Windows XP

- ・ Universal PnP に関するセキュリティの問題に対応

- Windows 2000

- ・ Service Pack2 以降に提供されたセキュリティの問題を解決するモジュールの適応

□ 対象機種／OS

全機種／Windows XP/2000

重 要

- ▶ 「アプリケーション（プログラム）の追加と削除」で、「Hotfix」と記載されたモジュールを削除しないでください。

■ AntiVirus

□ 概要

コンピュータウイルスを検出・駆除します（→「トラブルシューティング」－「コンピュータウイルス対策」（→P.55））。

□ 対象機種／OS

全機種／全 OS

□インストール方法

インストールの前に管理者権限を持ったユーザーとしてログオンしておいてください。

- 1 「ドライバーズ CD」をセットします。
- 2 「スタート」ボタン→「ファイル名を指定して実行」の順にクリックします。
- 3 「名前」に次のように入力し、「OK」をクリックします。
[CD-ROM ドライブ]:\\$nav\\$setup.exe

インストールが始まります。メッセージに従って操作してください。

Windows 2000/NT では次の POINT を参照してください。

POINT

- ▶ 「サービスアカウント情報」ウィンドウでは、管理者権限を持った「ユーザー名」とその「パスワード」を入力してください。

■ Power MANagement for Windows

□概要

本ワークステーションの電源を制御できます（→ P.34）。

□対象機種／OS

全機種／全 OS

□インストール方法

インストールの前に管理者権限を持ったユーザーとしてログオンしておいてください。

POINT

- ▶ リモート電源制御機能を使用する場合は、インストール時にあらかじめ IP アドレス、サブネットマスクの設定、TCP/IP プロトコルおよび NetBEUI のインストールが必要です。また、使用時には「デバイスマネージャ」の「ネットワークアダプタ」でお使いの LAN ドライバのプロパティを表示し、「電源の管理」タブで「電源の節約のために、コンピュータでデバイスの電源をオフにできるようにする」をチェックしてください。

- 1 「ドライバーズ CD」をセットします。
- 2 「スタート」ボタン→「ファイル名を指定して実行」の順にクリックします。
- 3 「名前」に次のように入力し、「OK」をクリックします。
[CD-ROM ドライブ]:\\$other\\$pman\\$pmunsub\\$setup.exe

このあとは、メッセージに従って操作します。

■ FM-Menu

□ 概要

ボタン式メニューから簡単にアプリケーションを起動できます。また、特定キーの入力やWindows機能を制限します。

□ 対象機種／OS

全機種／全 OS

□ インストール方法

インストールの前に管理者権限を持ったユーザーとしてログオンしておいてください。

- 1** 「ドライバーズ CD」をセットします。
- 2** 「スタート」ボタン→「ファイル名を指定して実行」の順にクリックします。
- 3** 「名前」に次のように入力し、「OK」をクリックします。
 ● Windows XP の場合
 [CD-ROM ドライブ]:¥fmmenu¥xp¥setup. exe
 ● Windows 2000 の場合
 [CD-ROM ドライブ]:¥fmmenu¥2k¥setup. exe
 ● Windows NT の場合
 [CD-ROM ドライブ]:¥fmmenu¥nt¥setupfm-menu. exe

この後は、メッセージに従って操作します。

■ @nifty でインターネット

□ 概要

インターネットのプロバイダである @nifty に入会できます。

□ 対象機種／OS

全機種／全 OS

□ インストール方法

インストールの前に管理者権限を持ったユーザーとしてログオンしておいてください。

- 1** 「ドライバーズ CD」をセットします。
- 2** 「スタート」ボタン→「ファイル名を指定して実行」の順にクリックします。
- 3** 「名前」に次のように入力し、「OK」をクリックします。
 [CD-ROM ドライブ]:¥nifty¥setup. exe

この後は、メッセージに従って操作します。

 **重要**

- ▶ Windows NT で「セットアップ完了」ウィンドウが表示された場合は、「いいえ、後でコンピュータを再起動します。」をクリックし、インストールを終了させてから、「スタート」ボタン→「シャットダウン」→「コンピュータを再起動する」の順にクリックし、本ワークステーションを再起動させてください。

アンインストール方法

■ 留意事項

アプリケーションをアンインストールする場合は、次の点に注意してください。

- アプリケーションをすべて終了してからアンインストールを始める
- DLL ファイルは削除しない

アンインストール時に次のようなメッセージが表示されることがあります。

「この DLL は複数のアプリケーションで使用されている可能性があります。削除を行いますか？」

この DLL ファイルを削除すると、他のアプリケーションが正常に動作しなくなることがあります。アプリケーションのマニュアル、ヘルプ、または Readme.txt などの説明ファイルで、特に指示がない場合は DLL ファイルは削除しないことをお勧めします。

■ アンインストール方法

一般的に、次の方法があります。

- アンインストール機能を使用する
アプリケーションにアンインストール機能が用意されている場合があります。
- 「アプリケーションの追加と削除」機能を使用する
「コントロールパネル」ウィンドウの「アプリケーションの追加と削除」機能を使用してアプリケーションを削除できます。

アンインストール方法はアプリケーションによって異なります。詳細は各アプリケーションのマニュアル、ヘルプ、または Readme.txt などの説明ファイルをご覧ください。

2 ドライバ

◀ 重要

- 添付の「ドライバーズ CD」には、機種によっては使用できないソフトウェアも含まれています。本書を参照し、正しいソフトウェアを使用してください。誤ったソフトウェアをインストールした場合、本ワークステーションが正しく動作しなくなり、リカバリが必要となることがあります。

リカバリ後は、グラフィックスドライバのみインストールする必要があります。その他のドライバを再インストールする必要はありません。なんらかの理由でドライバの再インストールが必要な場合のみ、必要なドライバを再インストールしてください。

Windows NT を再インストールした場合は、必要に応じてドライバをインストールしてください。

ドライバのインストールは、それぞれのドライバのインストール手順をご覧ください。

インストール手順は、「ドライバーズ CD」内の「Indexcd.htm」で該当するドライバのフォルダ名称を確認し、フォルダ内の「Install.txt」または「Readme.txt」をご覧ください。

◀ 重要

- すでにインストールされているドライバについては、特に問題がない限りインストールしないでください。ただし、ドライバーズ CD の Update フォルダ内に最新ドライバが格納されている場合がありますので、必要に応じてインストールしてください。
- CELSIUS FireGL 8800、CELSIUS WildcatIII 6110 は 256 色の発色数は設定できないため、256 色の発色数を必要とするアプリケーション（Windows Media Player での視覚エフェクトの全画面表示など）はお使いになれません。
- CELSIUS Quadro4 ディスプレイドライバをアンインストールした場合、デスクトップ上にフォルダが作成される場合があります。この場合は作成されたフォルダを削除してください。
- CELSIUS 330 で「Intel Chipset Software Installation Utility」をインストールした場合、インストール完了時に再起動を要求するメッセージが表示されない場合があります。その場合、次の手順で再起動してください。
 - 「Install Shield(R) ウィザードが完了しました」ウィンドウで「完了」をクリックします。
 - 次の操作を行います。
 - Windows 2000 の場合
「スタート」ボタン→「シャットダウン」の順にクリックし、「再起動」を選択して、[OK] をクリックします。
 - Windows XP の場合
「スタート」ボタン→「終了オプション」の順にクリックし、「再起動」をクリックします。
 本ワークステーションが再起動されます。
- CELSIUS 330 で「Intel Ultra ATA Companion」（「スタート」ボタン→「Intel Ultra ATA Storage Driver」→「Companion」）から搭載しているハードディスクの容量を確認する場合、「ディスクサイズ」で表示される GB 単位の表示が正しく表示されません。バイト単位の表示でご確認ください。

□ Windows XP の留意事項

- Windows XP でカスタムメイドオプションの SCSI カードを選択している場合は、Windows 標準のドライバをお使いください。

- LAN ドライバのインストール中、複数のドライバ名称が表示される場合があります。その場合、何も変更せずに「OK」をクリックしてください。

□ Windows NT の留意事項

- Windows NT では一部のドライバの再インストールは「ドライバのバックアップ」(→ P.50)で作成した「バックアップディスク」を使って行います。
- インストール時に「Windows NT Workstation 4.0 Disc1」の CD-ROM を要求された場合は、「c:\support\i386」と指定してください。
- ディスプレイドライバ、サウンドドライバをインストールする前に、必ず Windows NT Service Pack6a をインストールしてください。
- 必要なドライバ、アプリケーションのインストール後や、ネットワークの設定を変更した場合は、必ず「Internet Explorer 5.01 SP2」をアンインストールした後、「Windows NT Service Pack6a」、「Internet Explorer 5.01 SP2」、「セキュリティツールキット」、および「3 モードフロッピーディスクドライバ」の順にインストールしてください。

ドライバのバックアップ

Windows NT では、本ワークステーションに添付の「ドライバーズ CD」から、「バックアップディスク」を作成します。

「バックアップディスク」は、ドライバのインストールに使用します。

■ バックアップの内容

ソフトウェア名称	機種	入力する フォルダ名	備考
電源切断ユーティリティ (HAL)	CELSIUS 340	\os\drvdisk1	
	CELSIUS 670	\os\drvdisk2	搭載 CPU が 1 個の場合
		\os\drvdisk3	搭載 CPU が 2 個の場合
Intel 8255x-based PCI Ethernet Adapter Windows NT(R)4.0 LAN Driver V6.00.49	CELSIUS 340	\lan\i8255x\nt	
Intel PRO/100 LAN Driver V5.12	CELSIUS 670	\lan\intelpro\nt	
3COM Fast-EtherLink XL 3C905CX-TXM WOL 5.4	CELSIUS 340/670	\lan\3com\nt	
QLogic 64bit U160 Onboard SCSI V7.14	CELSIUS 670	\other\qlogic\nt	

次のものを用意してください。

- ドライバーズ CD
- 1.44MB 2HD フロッピーディスク
「Intel 8255x-based PCI Ethernet Adapter Windows NT(R) 4.0 LAN Driver V6.00.49」、「Intel PRO/100 LAN Driver V5.12」、「3COM Fast-EtherLink XL 3C905CX-TXM WOL 5.4」には 2 枚、その他のドライバには 1 枚必要です。
- フロッピーディスクのラベル（必要な枚数を購入してください）

■ バックアップ方法

1 「ドライバーズ CD」とフロッピーディスクをセットします。

2 次の操作を行います。

● Windows XP の場合

「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「アクセサリ」→「コマンドプロンプト」の順にクリックします。

● Windows 2000 の場合

「スタート」ボタン→「プログラム」→「アクセサリ」→「コマンドプロンプト」の順にクリックします。

● Windows NT の場合

「スタート」ボタン→「プログラム」→「コマンドプロンプト」の順にクリックします。
「コマンドプロンプト」ウィンドウが表示されます。

3 次のように入力し、【Enter】キーを押します。

format a:

4 【Enter】キーを押します。

フォーマットが終了すると、ラベルの入力メッセージが表示されます。

5 【Enter】キーを押します。

6 【N】キーを押し、【Enter】キーを押します。

7 コマンドプロンプトから、次のように入力し、【Enter】キーを押します。

cd /d [CD-ROM ドライブ] :XXXXXX

xxxxxx には、「バックアップの内容」(→ P.50) の表のフォルダ名を入力します。

POINT

▶ 「Intel 8255x-based PCI Ethernet Adapter Windows NT(R) 4.0 LAN Driver V6.00.49」、「Intel PRO/100 LAN Driver V5.12」、「3COM Fast-EtherLink XL 3C905CX-TXM WOL 5.4」をバックアップする場合は、フロッピーディスクを2枚使用します。コマンドプロンプトから次のように入力し、【Enter】キーを押してください。

・ フロッピーディスク 1枚目

cd /d [CD-ROM ドライブ] :XXXXXX\disk1

・ フロッピーディスク 2枚目

cd /d [CD-ROM ドライブ] :XXXXXX\disk2

xxxxxx には、「バックアップの内容」(→ P.50) の表のフォルダ名を入力します。

8 コマンドプロンプトから、次のように入力し、【Enter】キーを押します。

xcopy *.* a: /s /e /h

9 作成したバックアップディスクに、ソフトウェア名称を記入したラベルを貼り、書き込み禁止の状態にします。

ソフトウェア名称は「バックアップの内容」(→ P.50) の表で作成したものを記入してください。

Memo

第3章

トラブルシューティング

おかしいなと思ったときや、わからないことが
あったときの対処方法について説明していま
す。

1	トラブルに備えて	54
2	トラブル発生時の基本操作	57
3	起動・終了時のトラブル	61
4	OS・アプリケーション関連のトラブル	63
5	ハードウェア関連のトラブル	67
6	リカバリ／再インストール	82
7	それでも解決できないときは	83

1 トラブルに備えて

ここでは、トラブルを未然に防ぐために注意すべき点や、もしものときに備えて事前に準備すべき点について、説明します。

テレビ／ラジオなどの受信障害防止について

本ワークステーションは、テレビやラジオなどの受信障害を防止するVCCIの基準に適合しています。しかし、設置場所によっては、本ワークステーションの近くにあるラジオやテレビなどに受信障害を与える場合があります。このような現象が生じても、本ワークステーションの故障ではありません。

テレビやラジオなどの受信障害を防止するために、次のような点にご注意ください。

■ 本ワークステーションの注意事項

- 本体カバーを外した状態でお使いにならないでください。
- 周辺機器と接続するケーブルは、指定のケーブルを使い、それ以外のケーブルは使わないでください。
- ケーブルを接続する場合は、コネクタが確実に固定されていることを確認してください。また、ネジなどはしっかりと締めてください。
- 本ワークステーションの電源プラグは、テレビやラジオなどを接続しているコンセントとは別のコンセントに接続してください。

■ テレビやラジオなどの注意事項

- テレビやラジオなどを、本ワークステーションから遠ざけて設置してください。
- テレビやラジオなどのアンテナの方向や位置を変更して、受信障害を生じない方向と位置を探してください。
- テレビやラジオなどのアンテナ線の配線ルートを本ワークステーションから遠ざけてください。
- アンテナ線は同軸ケーブルをお使いください。

本ワークステーションや周辺機器などが、テレビやラジオなどの受信に影響を与えているかどうかは、本ワークステーションや周辺機器など全体の電源を切ることで確認できます。

テレビやラジオなどに受信障害が生じている場合は、上記の項目を再点検してください。

それでも改善されない場合は、弊社担当営業員または担当保守員にご連絡ください。

Windows のセットアップ後に行ってください

Windows のセットアップが終了したら、リカバリや再インストール（→『取扱説明書』）に備えてディスク作成やバックアップなどを行ってください。

- 「ソフトウェア」 – 「ドライバのバックアップ」（→ P.50）

データのバックアップ

ハードディスクに障害が発生した場合などは、データが失われる場合があります。必要なデータはフロッピーディスクやMOなどの別媒体や、バックアップ装置を備えたファイルサーバーなどに定期的にバックアップしてください。

コンピュータウイルス対策

コンピュータウイルスはプログラムの1つで、なんらかの方法でコンピュータ内に読み込まれる（感染する）と、コンピュータウイルス自身で増殖し、大切なデータを壊したり、コンピュータを起動できなくしたりといった悪影響を及ぼします。

■ AntiVirus

本ワークステーションにはウイルスを発見するためのソフトとして、AntiVirus が添付されています。メールに添付されたファイルや入手したフロッピーディスクなどは、ウイルスチェックを行ったうえでお使いください。

AntiVirus はご購入時にはインストールされていません。必要に応じて、「ソフトウェア」→「ソフトウェア一覧」（→ P.36）をご覧になり、インストールしてください。また、AntiVirus の使用方法については、ヘルプをご覧ください。

□ 留意事項

- 「AntiVirus」を起動していると、アプリケーションが正常にインストールされなかつたり、ご使用のアプリケーションによっては不具合が発生したりすることがあります。この場合は次のいずれかの方法で「AntiVirus」を使用不可にしてください。
 - Windows XP では、「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「Norton AntiVirus」→「Norton AntiVirus 2002」の順にクリックします。
 - Windows 2000/NT では、「スタート」ボタン→「プログラム」→「Norton AntiVirus」→「Norton AntiVirus 2002」の順にクリックします。
 - 「Norton AntiVirus」ウィンドウで「オプション」をクリックし、「Auto-Protect を有効にする」のチェックを外して、「OK」をクリックします。
 - 「Norton AntiVirus」のアイコンがタスクバーに表示されている場合は、そのアイコンを右クリックし、「終了」をクリックします。
- AntiVirus でコンピュータウイルス検査を行っているときは、ハードディスクにあるプログラムを実行したり、検査中のフロッピーディスクを取り出したりしないでください。
- 本ワークステーションをフロッピーディスクから起動する場合、そのフロッピーディスクがコンピュータウイルスに感染していないかをチェックしてから使用してください。
- AntiVirus は、コンピュータウイルスの情報を記載したデータファイルと、検査プログラム（スキャンエンジン）を使用しています。定期的に更新してください。
スキャンエンジンを更新する場合は、最新版の AntiVirus をご購入ください。

■ コンピュータウイルスの被害届け

コンピュータウイルスを発見した場合は、被害届けを提出してください。

☞ 重要

- ▶ コンピュータウイルスに感染したことにより本ワークステーションの修理が必要になった場合、保証期間内であっても有償修理になる場合があります。ご了承ください。

コンピュータウイルスの届け出制度は、「コンピュータウイルス対策基準」（平成12年12月28日付通商産業省告示第951号）の規定に基づいています。コンピュータウイルスを発見した場合、コンピュータウイルス被害の拡大と再発を防ぐために必要な情報を、情報処理振興事業協会（IPA）セキュリティセンターに届け出ることとされています（<http://www.ipa.go.jp/security/>）。

ドキュメントの確認

周辺機器の取り付けやアプリケーションのインストールを行う場合は、製品に添付されているドキュメントを読み、次の点を確認してください。

- ハードウェア／ソフトウェア要件

使用したい周辺機器やアプリケーションが本ワークステーションのハードウェア構成やOSで使用できるか確認します。

- 取り付け時やインストール時に注意すべき点

特に readme.txt や install.txt などのテキストファイルがある場合は、マニュアルに記述できなかった重要な情報が記載されている場合があります。忘れずに目を通してください。

また、製品添付のドキュメントだけではなく、Web上の情報もあわせて確認してください。ベンダーの Web サイトからは、次のような情報やプログラムを得ることができます。

- 製品出荷後に判明した問題などの最新情報

- 問題が解決されたドライバやアプリケーションの修正モジュール

弊社の富士通パソコン情報サイト FMWORLD.NET（<http://www.fmworld.net/>）でも、本ワークステーションに関連したサポート情報やドライバを提供しておりますので、ご覧ください。

2 トラブル発生時の基本操作

ここでは、トラブル発生時にまず行うべき操作を説明します。

接続や電源スイッチを確認する

電源が入らない、画面に何も表示されない、ネットワークに接続できない、などのトラブルが発生したら、まず接続や電源スイッチを確認してください。

- 電源ケーブルや周辺機器との接続ケーブルは正しいコネクタに接続されていますか？またゆるんだりしていませんか？
- 電源コンセント自体に問題はありませんか？他の電器製品を接続して動作するか確認してください。
- OA タップを使用している場合、OA タップ自体に問題はありませんか？他の電器製品を接続して動作するか確認してください。
- 使用する装置の電源スイッチはすべて入っていますか？
- ネットワーク接続ができなくなった場合は、ネットワークを構成する機器（サーバー本体やハブなど）の接続や電源も確認してください。

以前の状態に戻す

周辺機器の取り付け、アプリケーションのインストールを行った直後にトラブルが発生した場合は、いったん以前の状態に戻してください。

- 周辺機器を取り付けた場合は、取り外します。
 - アプリケーションをインストールした場合は、アンインストールします。
- その後、製品に添付されているマニュアル、readme.txt などの補足説明書、Web 上の情報を確認し、取り付けやインストールに関して何か問題がなかったか確認してください（→ P.56）。発生したトラブルに該当する記述があれば、ドキュメントの指示に従ってください。

■ 前回起動時の構成に戻す

問題が発生した周辺機器を取り外してもかかわらず Windows が起動しない場合は、前回起動時の構成に戻してみてください。

□ Windows XP の場合

- 1 本ワークステーションの電源を入れます。**
- 2 「CELSIUS」ロゴが消えたら、【F8】キーを押します。**
【F8】キーは軽く押しただけでは認識されない場合があります。しばらくの間押してください。
「Windows 拡張オプションメニュー」が表示されます。

- 3 「前回正常起動時の構成(正しく動作した最新の設定)」を選択し、【Enter】キーを押します。**

画面の指示に従って操作します。

□ Windows 2000 の場合

- 1 本ワークステーションの電源を入れます。**

- 2 「Windows を起動しています ...」と表示されたら、【F8】キーを押します。**

【F8】キーは軽く押しただけでは認識されない場合があります。しばらくの間押してください。

「Windows 2000 拡張オプションメニュー」が表示されます。

- 3 「前回正常起動時の構成」を選択し、【Enter】キーを押します。**

画面の指示に従って操作します。

□ Windows NT の場合

- 1 本ワークステーションの電源を入れます。**

- 2 「オペレーティングシステムの選択」で「Windows NT Workstation Version 4.00」を選択し、【Enter】キーを押します。**

- 3 「OS Loader V4.01」と表示されたら、【Space】キーを押します。**

「ハードウェアプロファイル/構成の回復メニュー」が表示されます。

画面の指示に従って操作します。

Safe モード／VGA モードで起動する

Windows が起動しない場合、Safe モード (Windows XP/2000) または VGA モード (Windows NT) で起動できるか確認してください。

起動方法は、次のとおりです。

■ Windows XP の場合

- 1 本ワークステーションの電源を入れます。**

- 2 「CELSIUS」ロゴが消えたら、【F8】キーを押します。**

【F8】キーは軽く押しただけでは認識されない場合があります。しばらくの間押してください。

「Windows 拡張オプションメニュー」が表示されます。

- 3 「セーフモード」を選択し、【Enter】キーを押します。**

「オペレーティングシステムの選択」が表示されます。

- 4** 「Microsoft Windows XP」が選択されていることを確認し、【Enter】キーを押します。

「Windows はセーフモードで実行されています。」と表示されます。

- 5** 「はい」をクリックします。

必要に応じて、「ソフトウェア」－「ドライバ」（→P.49）をご覧になり、問題があるドライバを再インストールしてください。

■ Windows 2000 の場合

- 1** 本ワークステーションの電源を入れます。

- 2** 「Windows を起動しています ...」と表示されたら、【F8】キーを押します。

【F8】キーは軽く押しただけでは認識されない場合があります。しばらくの間押してください。

「Windows 2000 拡張オプションメニュー」が表示されます。

- 3** 「セーフモード」を選択し、【Enter】キーを押します。

- 4** 管理者権限を持ったユーザーとしてログオンします。

「Windows はセーフモードで実行されています。」と表示されます。

- 5** 「OK」をクリックします。

必要に応じて、「ソフトウェア」－「ドライバ」（→P.49）をご覧になり、問題があるドライバを再インストールしてください。

■ Windows NT の場合

- 1** 本ワークステーションの電源を入れます。

- 2** 「オペレーティングシステムの選択」で「Windows NT Workstation Version 4.00[VGA mode]」を選択し、【Enter】キーを押します。

- 3** 管理者権限を持ったユーザーとしてログオンします。

「無効なディスプレイ設定」ウィンドウが表示されます。

- 4** 「OK」をクリックします。

「画面のプロパティ」ウィンドウが表示されます。

- 5** 「キャンセル」をクリックします。

必要に応じて、「ソフトウェア」－「ドライバ」（→P.49）をご覧になり、問題があるドライバを再インストールしてください。

ハードウェアの競合を確認する

周辺機器を正しく取り付けたにもかかわらず動作しない場合、ハードウェア（IRQ）の競合が起こっていないか確認してください。
確認方法は次のとおりです。

■ Windows XP/2000 の場合

1 次の操作を行います。

● Windows XP の場合

「スタート」ボタンをクリックし、「マイコンピュータ」アイコンを右クリックして「プロパティ」をクリックします。

● Windows 2000 の場合

「マイコンピュータ」アイコンを右クリックし、「プロパティ」をクリックします。
「システムのプロパティ」ウィンドウが表示されます。

2 次の操作を行います。

「ハードウェア」タブをクリックし、「デバイスマネージャ」をクリックします。

3 競合しているデバイスを確認します。

競合しているデバイス名にはエクスクラメーションマーク（!）が表示されています。
または、×印が表示されている場合もあります。

4 競合しているデバイスがある場合、IRQ の変更を行ってください。

変更方法については、「スタート」メニューに登録されているヘルプで調べることができます。

また、デバイスに添付されているマニュアルもあわせてご覧ください。

■ Windows NT の場合

1 「スタート」ボタン→「管理ツール（共通）」→「Windows NT 診断プログラム」の順にクリックします。

2 「リソース」タブをクリックし、競合しているデバイスを確認します。

3 競合しているデバイスがある場合、IRQ の変更を行ってください。

変更方法については、デバイスに添付されているマニュアルをご覧ください。

メッセージなどが表示されたらメモしておく

画面上にメッセージなどが表示されたら、メモしておいてください。マニュアルのエラーメッセージ集などで該当する障害を検索する際や、お問い合わせの際に役立ちます。

3 起動・終了時のトラブル

□ ピープ音が鳴った

電源を入れた後の POST（自己診断）時に、ピープ音が鳴る場合があります。ピープ音が鳴る原因と対処方法は、『取扱説明書』をご覧ください。

□ メッセージが表示された

電源を入れた後の POST（自己診断）時に、画面にメッセージが表示される場合があります。メッセージ内容と意味については、『取扱説明書』をご覧ください。

□ 電源が入らない

- 電源ケーブルは接続されていますか？
接続を確認してください。

□ 画面に何も表示されない

- ワークステーション本体の電源は入っていますか？
- ディスプレイに関して次の項目を確認してください。
 - ・電源スイッチは入っていますか？
 - ・ディスプレイケーブルは、正しく接続されていますか？
 - ・ディスプレイケーブルのコネクタのピンが破損していませんか？
 - ・ディスプレイの電源ケーブルは、アウトレットに接続されていますか？
 - ・ディスプレイのライトネス／コントラストボリュームは、正しく調節されていますか？
- メモリなどの周辺機器は正しく取り付けられていますか？

□ マウスが使えないため、Windows を終了できない

- キーボードを使って Windows を終了させることができます。
 1. 【Windows】キーまたは【Ctrl】+【Esc】キーを押します。
「スタート」メニューが表示されます。
 2. 【↑】【↓】キーで終了メニューの選択、【Enter】キーで決定を行うことで Windows の終了操作を行います。

マウスが故障している場合は、弊社担当営業員または担当保守員に連絡してください。

□ Windows が動かなくなってしまい、電源が切れない

- 次の手順で Windows を終了させてください。
 - ・Windows XP の場合
 1. 【Ctrl】+【Alt】+【Delete】キーを押します。
「Windows タスクマネージャ」ウィンドウが表示されます。
 2. 「シャットダウン」メニュー→「コンピュータの電源を切る」の順にクリックします。
Windows が強制終了されます。

POINT

- ▶ 強制終了した場合には、プログラムでの作業内容を保存することはできません。
- ▶ 強制終了した場合は、ハードディスクのチェックをお勧めします（→ P.72）。

・Windows 2000/NT の場合

1. 【Ctrl】 + 【Alt】 + 【Delete】 キーを押します。
「Windows のセキュリティ」または「Windows NT のセキュリティ」ウィンドウが表示されます。
2. 「シャットダウン」をクリックします。
Windows が強制終了されます。

POINT

- ▶ 強制終了した場合には、プログラムでの作業内容を保存することはできません。
- ▶ 強制終了した場合は、ハードディスクのチェックをお勧めします（→ P.72）。

4 OS・アプリケーション関連のトラブル

□ Windows が起動しなくなった

- アクセス表示ランプは点灯していますか？
本ワークステーションが故障している可能性があります。弊社担当営業員または担当保守員にご相談ください。
- 周辺機器を取り付けませんでしたか？
いったん周辺機器を取り外し、Windows が起動するか確認してください（→ P.57）。もし起動するようであれば、周辺機器の取り付け方法が正しいか、もう一度確認してください。
- Safe モード／VGA モードで起動できますか？
いったん Safe モードまたは VGA モードで起動し（→ P.58）、問題を解決（ドライバの再インストールなど）してください。
- Windows を正常に終了できなかった場合、次回起動時に自動的にセーフモードになり、「キーボードの選択」画面が表示されることがあります。この場合、そのままセーフモードで起動し、起動が完了したら本ワークステーションを再起動してください。

□ プログラムが動かなくなってしまった

- 次の手順でプログラムを終了させてください。
 - ・ Windows XP の場合
 1. 【Ctrl】 + 【Alt】 + 【Delete】 キーを押します。
「Windows タスクマネージャ」 ウィンドウが表示されます。
 2. 動かなくなったプログラムを選択し、「タスクの終了」をクリックします。
プログラムが強制終了されます。
 3. 「Windows タスクマネージャ」 ウィンドウを閉じます。
 - ・ Windows 2000/NT の場合
 1. 【Ctrl】 + 【Alt】 + 【Delete】 キーを押します。
「Windows のセキュリティ」 または「Windows NT のセキュリティ」 ウィンドウが表示されます。
 2. 「タスクマネージャ」 をクリックします。
「Windows タスクマネージャ」 または「Windows NT タスクマネージャ」 ウィンドウが表示されます。
 3. 動かなくなったプログラムを選択し、「タスクの終了」をクリックします。
プログラムが強制終了されます。
 4. 「Windows タスクマネージャ」 または「Windows NT タスクマネージャ」 ウィンドウを閉じます。

POINT

- ▶ プログラムを強制終了した場合、プログラムでの作業内容を保存することはできません。
- ▶ プログラムを強制終了した場合は、ハードディスクのチェックをお勧めします（→ P.72）。

POINT

- ▶ プログラムを強制終了した場合、プログラムでの作業内容を保存することはできません。
- ▶ プログラムを強制終了した場合は、ハードディスクのチェックをお勧めします（→P.72）。

□ Windows の動作が不安定になった

- Windows XP/2000 で、ログオン後すぐに「コントロールパネル」ウィンドウ「管理ツール」内の「コンポーネントサービス」を起動し、「コンソールルート」－「コンポーネントサービス」－「コンピュータ」を開こうとすると、まれにアプリケーションエラーが起きることがあります。このエラーが起こると、本ワークステーションの動作が不安定になります。この場合は、本ワークステーションを再起動してください。再起動後は問題なくお使いになれます。
なお、「コンポーネントサービス」の「コンピュータ」はログオン後 10 分ほど経過してから開くようにしてください。
- 古いバージョン／レベルのソフトウェア（アプリケーション、ドライバ）を使用すると、本ワークステーションおよびソフトウェアが正常に動作しない場合があります。本ワークステーションに添付されているソフトウェアは、添付されているバージョンを使用するか、その最新版入手して使用してください。
また、本ワークステーションに添付されていないソフトウェアの場合も、最新版を使用してください。
- お使いの装置によりサポートするOSがことなります。サポートされていないOSはお使いになれません。

□ 省電力機能が実行されない

- 「コントロールパネル」や BIOS の設定を確認してください。
省電力機能の詳細については、「機能」－「省電力」（→P.25）をご覧ください。

□ 「コントロールパネル」の「ユーザーアカウント」で「ユーザーの簡易切り替えを使用する」が選択できない（Windows XP）

- 「ユーザーの簡易切り替え」機能を使用するためには、128MB 以上のメモリ（ビデオメモリとして使用される分は除く）が必要です。必要に応じて、メモリを増設してください。

□ アプリケーションのインストールが正常に行われない

- ウイルス検索ソフトを起動している場合、その影響が考えられます。
ウイルス検索ソフトを終了させ、アプリケーションのインストールができるか試してください。
ウイルス検索ソフトを終了させてもインストールが正常に行われないときは、各アプリケーションのサポート窓口にお問い合わせください。
- 市販のアプリケーションによっては、インストールの際に、Acrobat Reader を一緒にインストールするものがあります。このとき、本ワークステーションにプレインストールされている Acrobat Reader 5.0 よりも低いバージョンのものがインストールされてしまうことがあります。バージョンをご確認のうえ、Acrobat Reader 5.0 をインストールし直してください。

□ Windows NT 4.0 Service Pack6a について

- Windows NT 4.0 Service Pack6a をインストールした環境に新しいコンポーネントをインストールすると、正常に動作しない場合があります。これは、追加したコンポーネントのファイルが、Service Pack6a のコンポーネントのファイルと異なる場合があるためです。たとえば、Service Pack6a をインストール後、ネットワークを組み込んだときに、サーバーサービスが正常に動作しなくなる現象が確認されています。
原因は、「C:\Support\I386」からインストールされたネットワークモジュールが、Service Pack6a のネットワークモジュールと異なるためです。このような場合は、再度 Service Pack6a をインストールする必要があります。
- ネットワークがインストールされていない環境に Service Pack6a をインストールしたあと、フォントやマルチメディアドライバなどを追加する際に「参照」をクリックすると、Windows NT がインストールされているドライブしか表示されない場合があります。
インストール元がフロッピーディスクまたは CD-ROM の場合は Windows NT がインストールされているドライブに適当なフォルダを作成し、このフォルダにインストールするドライバやファイルをあらかじめコピーしてからインストールしてください。
なお、「マルチメディア」の「ドライバのインストール」では、フルパスを入力してインストールすることもできます。
- シャットダウン時またはログオフ時、次のエラーメッセージが表示されることがあります、動作に問題はありません。

「ウィンドウステーションがシャットダウン中であるためアプリケーションが初期化に失敗しました。」

このメッセージが表示されたあとにログオンすると、日本語入力システムとして MS-IME97 を使用している場合、下記の現象が起きることがあります。なお、文字入力は正常に行えます。

 - ・ MS-IME97 のツールバーを「タスクバーに入れる」に設定していると、「日本語入力インジケータ」が表示されなくなることがあります。
「日本語入力インジケータ」を表示させるには、MS-IME97 を再度オンにしてください。
 - ・ MS-IME97 のツールバーを「ドッキング可能」に設定していても、ドッキング機能が有効にならないことがあります。
- 「画面のプロパティ」の「スクリーンセーバー」タブで、スクリーンセーバーとして「チャネルスクリーンセーバー」を指定しないでください。アプリケーションエラーが発生します。
- ソフトウェアを使用するとき、次のようなメッセージが表示される場合があります。

パフォーマンスマニタ : perfmon.exe -DLL が見つかりません。
 ダイナミック リンク ライブラリ snmpapi.dll が指定されたパス
 C:\WINNT\System32\;C:\WINNT\System32;C:\WINNT\System;
 C:\WINNT;C:\WINNT\System32;C:\WINNT に見つかりません。

この場合、次の方法で回避できます。

 - ・ ネットワークプロトコルに「TCP/IP プロトコル」を追加する。
 - ・ 「Windows NT Service Pack6a Disc1」内の「I386\Snmpapi.dll」を「C:\Winnt\System32」にコピーする。

- 本ワークステーションへのログオン時、「イベントビューア」に以下のエラーが登録される場合があります。この場合、下記に記載してあるいずれかの方法にて回避してください。

イベント ID : 7001

ソース : Service Control Manager

種類 : エラー

説明 : Protected Storage サービスは次のエラーのために開始できなかった Remote

ProcedureCall (RPC) Service サービスに依存します:

サービスは開始後に開始待ち状態でハンギングしました。

イベント ID : 7022

ソース : Service Control Manager

種類 : エラー

説明 : Remote Procedure Call (RPC) Service サービスは開始時にハンギングしました。

- IPX プロトコルを削除する。

IPX プロトコルを使用していない場合は以下の手順に従い IPX プロトコルを削除します。

1. 「ネットワークコンピュータ」を右クリックし、「プロパティ」をクリックします。
「ネットワーク」ウィンドウが表示されます。
2. 「プロトコル」タブをクリックし、「ネットワークプロトコル」から「NWLink IPX/SPX 互換トランスポート」を選択し「削除」ボタンをクリックします。
3. 「はい」をクリックします。

- TCP/IP プロトコルをインストールし、TCP/IP プロトコルを使用する

- DCOMCNFG の既定のプロトコルタブで NetBEUI の優先順位を上げる

1. 「スタート」ボタン→「ファイル名を指定して実行」の順にクリックします。

2. 「名前」に次のように入力し、「OK」をクリックします。

dcomcnfg

「分散 COM の構成のプロパティ」ダイアログボックスが表示されます。

3. 「既定のプロトコル」タブを選択し、「DCOM プロトコル」から「Connection-oriented NetBEUI」を選択します。

4. 「Connection-oriented NetBEUI」が「Datagram IPX」より上に表示されるまで「上へ」をクリックします。

5. 「OK」をクリックします。

- Internet Explorer 起動時に、インターネット接続ウィザードのセットアップオプションで「新しいインターネットアカウントにサインアップします（電話回線はモデムに接続されています）」を選択してダイヤルアップ設定を行うと、Windows NT 起動時に次のエラーメッセージが表示されることがあります。

「1つ以上のサービスまたはドライバがシステム起動時にエラーになりました。詳しくはイベントビューアを使用してイベントログを確認してください。」

このときイベントログに「システム接続されたデバイスが機能していません。」という内容のエラーが記録されます。このエラーメッセージを表示させないようにするために、Service Pack6a を再インストールしてください。

□ その他

- 管理者権限を持ったユーザーでログオン時に、インターネット接続ウィザード中に設定したメールのパスワードは、Outlook Express に反映されません。
Outlook Express 起動後にメールのパスワードをもう一度設定してください。

5 ハードウェア関連のトラブル

BIOS

□管理者用パスワードを忘れてしまった

管理者用パスワードを忘れるとき、BIOS セットアップを管理者権限で起動することができなくなり、項目の変更やパスワード解除ができなくなります。この場合は、修理が必要となりますので弊社担当営業員または担当保守員にご連絡ください。なお、保証期間にかかるわらず修理は有償となります。

メモリ

□メモリサイズが小さく表示される

「システムのプロパティ」ダイアログボックスで表示されるメモリサイズは、搭載メモリサイズより若干少なく表示されます。

内蔵 LAN

□ネットワークに接続できない

- ネットワークケーブルは正しく接続されていますか?
ワークステーション本体との接続、ハブとの接続を確認してください。
- ネットワークケーブルに関して次の項目を確認してください。
 • ケーブルのコネクタやケーブルは損傷していませんか?
 • 100Mbps で通信している場合、カテゴリ 5 のケーブルを使用してください。
- 内蔵 LAN に関して次の項目を確認してください。
 • ハードウェアの競合が起こっていないませんか? (→ P.60)
 • LAN ドライバは正しくインストールされていますか?
必要に応じて、「ソフトウェア」 - 「ドライバ」 (→ P.49) をご覧になり、再インストールしてください。
- TCP/IP プロトコルをお使いの場合は、Ping コマンドを使ってネットワークに接続できているか確認をしてください。

POINT

▶ Windows NT の場合、LAN ドライバをインストールすると、「コントロールパネル」ウィンドウに「Intel PROSet II」アイコンが登録されますが、この診断機能はお使いになられません。

- ハブに関して次の項目を確認してください。
 • 電源は入っていますか?
 • ACT/LNK ランプは点灯していますか?

- ・ Speed (100Mbps/10Mbps/Auto)、Duplex (Full/Half/Auto) の設定は、ワークステーション側の設定と合っていますか？
- Windows のセットアップ時に入力したコンピュータ名は、TCP/IP プロトコルのホスト名に反映されていますか？ (Windows NT)
Windows のセットアップ時に入力したコンピュータ名が、TCP/IP プロトコルのホスト名に反映されない場合があります。この場合は、ホスト名を設定してください。
- Windows 2000 セットアップ時にネットワーク識別ウィザードが自動的に起動されますが、このとき「戻る」をクリックしないでください。再設定が必要な場合は、設定終了後に該当箇所を修正してください。

□ ネットワークリソースに接続できない

各種サーバーに接続できない場合は、ネットワーク管理者に原因を確認してください。一般的に、次の点を確認します。

- お使いのネットワークに適したコンポーネント(クライアント/サービス/プロトコル)をインストールしていますか？
- 各コンポーネントの設定は、正しいですか？
- サーバーにアクセスするためのユーザー名やパスワードは正しいですか？
- サーバーにアクセスする権限を与えられていますか？
- サーバーがなんらかの理由で停止していませんか？

□ ネットワークに接続しないで本ワークステーションを使用したい (Windows NT)

TCP/IP プロトコルを使用し、「DHCP サーバから IP アドレスを取得する」を設定した状態（ご購入時の設定）で、ネットワークに接続せずに本ワークステーションを使用する場合は、次の操作を行ってください。再び、ネットワークに接続して使用する場合は、元の設定に戻してから使用してください。

設定を行わずに起動すると、次のような現象が起こる場合があります。

- 起動時に一部動作が遅くなる
- 「DHCP クライアントは IP アドレスを取得できませんでした」とメッセージが表示される
「DHCP サーバから IP アドレスを取得する」から「IP アドレスを指定する」へ設定を変更します。
次の手順に従って設定を変更してください。
 1. 「スタート」ボタン→「設定」→「コントロールパネル」の順にクリックします。
「コントロールパネル」 ウィンドウが表示されます。
 2. 「ネットワーク」アイコンをダブルクリックします。
 3. 「プロトコル」タブをクリックし、「TCP/IP プロトコル」を選択して、「プロパティ」をクリックします。
「Microsoft TCP/IP のプロパティ」 ウィンドウが表示されます。
 4. 「IP アドレス」タブで「IP アドレスを指定する」をクリックし、「IP アドレス」「サブネットアドレス」を入力します。
 5. 「OK」をクリックします。
「ネットワーク」 ウィンドウが表示されます。
 6. 「OK」をクリックします。
 7. 本ワークステーションを再起動します。

△ 重要

- ▶ 「IP アドレスを指定する」が指定されている場合は、本設定を行う必要はありません。
- ▶ 設定を変更した後、再度 DHCP を使用してネットワークに接続する場合は、次の手順を行ってください。
 1. 「スタート」ボタン→「設定」→「コントロールパネル」の順にクリックします。
「コントロールパネル」ウィンドウが表示されます。
 2. 「ネットワーク」アイコンをダブルクリックします。
 3. 「プロトコル」タブをクリックし、「TCP/IP プロトコル」を選択して、「プロパティ」をクリックします。
「Microsoft TCP/IP のプロパティ」ウィンドウが表示されます。
 4. 「IP アドレス」タブで「DHCP サーバから IP アドレスを取得する」をクリックします。
 5. 「DHCP を有効にしますか?」と表示されたら、「はい」をクリックします。
 6. 「OK」をクリックします。
「ネットワーク」ウィンドウが表示されます。
 7. 「OK」をクリックします。
 8. 本ワークステーションを再起動します。

続いて、BIOS セットアップで内蔵 LAN を無効に設定します。

「BIOS」をご覧になり、内蔵 LAN が機能しない設定に変更してください。

△ 重要

- ▶ 再度ネットワークに接続して使用する場合は、BIOS セットアップの項目を元の設定に戻してください。

□ ハブユニットの Link ランプが点灯しない、通信できない、通信が異常に遅い

ハブユニットの仕様や設定に合わせてアダプタの設定を変更してください。

「Speed」と「Duplex」、または「Link Speed & Duplex」を「Auto Detect」からハブユニットに合った通信速度に変更してください。

● Windows XP/2000 の場合

- 1** 管理者権限を持ったユーザーアカウントでログオンします。
- 2** 「マイコンピュータ」アイコンを右クリックし、「プロパティ」をクリックします。
「システムのプロパティ」ダイアログボックスが表示されます。
- 3** 「ハードウェア」タブをクリックし、「デバイスマネージャ」をクリックします。
「デバイスマネージャ」ダイアログボックスが表示されます。
- 4** 「ネットワークアダプタ」をダブルクリックします。
- 5** 次のアダプタを右クリックし、「プロパティ」をクリックします。
 - CELSIUS 330
Intel(R) PRO/100 Network Connection
 - CELSIUS 340
Intel(R) PRO/100 VM Network Connection
 - CELSIUS 670
Intel(R) PRO/100 S Desktop Adapter

6 「Advanced」タブをクリックします。**・スピードとデュプレックスの設定**

本ワークステーションをハブユニットに接続したとき、ハブユニット側のリンクランプが点灯せず、ネットワークのサーバなどへ接続できない場合は、以下の設定を変更してください。

Link Speed & Duplex :「プロパティ」の「Link Speed & Duplex」をクリックし、「値」から通信速度／通信方式を指定します。

100Mbps/Full Duplex … 100Mbps の速度で、「送信」「受信」に専用のラインを使用して同時に通信を行います。

100Mbps/Half Duplex … 100Mbps の速度で、「送信」「受信」別々に通信を行います。

10Mbps/Full Duplex … 10Mbps で通信を行い、「送信」「受信」に専用のラインを使用して同時に通信を行います。

10Mbps/Half Duplex … 10Mbps の速度で、「送信」「受信」別々に通信を行います。

Auto Detect … ハブユニットと通信を行い、「通信速度」「通信方式」を自動的に決定します。

POINT

- ▶ Full Duplex に設定する場合、ハブユニット側も Full Duplex に設定する必要があります。

・ローカルアドレスの設定

ローカルアドレスを使用する場合は、以下の設定を変更してください。

Locally Administered Address :「プロパティ」の「Locally Administered Address」をクリックし、「値」に「02」で始まる 16 進 12 桁を入力します。

グローバルアドレスに戻したい場合は、「Restore Default」ボタンをクリックします。なお、設定する値については、ネットワーク管理者に確認してください。

7 「OK」をクリックします。**8 すべてのダイアログボックスを閉じます。****● Windows NT の場合****重要**

- ▶ Intel(R) PROSet II 起動前に、他のアプリケーションをすべて終了させてください。

1 「コントロールパネル」ウィンドウの「Intel(R) PROSet II」アイコンをダブルクリックします。**2 「Advanced」タブの「Setting」で変更する項目をクリックし、「Value」に値を指定します。**

・ Link Speed & Duplex :「Setting」の「Link Speed & Duplex」をクリックし、「Value」から通信速度／通信方式を指定します。

100Mbps/Full Duplex … 100Mbps の速度で、「送信」「受信」に専用のラインを使用して同時に通信を行います。

100Mbps/Half Duplex … 100Mbps の速度で、「送信」「受信」別々に通信を行います。

10Mbps/Full Duplex … 10Mbps で通信を行い、「送信」「受信」に専用のラインを使用して同時に通信を行います。

10Mbps/Half Duplex … 10Mbps の速度で、「送信」「受信」別々に通信を行います。

Auto Detect（初期値）…ハブユニットと通信を行い、「通信速度」「通信方式」を自動的に決定します。

POINT

- ▶ 全二重モードに設定する場合、ハブユニット側も全二重モードに設定する必要があります。

□ ローカルアドレスを使用する

ローカルアドレスを使用する場合は、Intel(R) PROSet II の「Advanced」タブの「Setting」で「Locally Administered Address」を変更してください。

重要

- ▶ Intel(R) PROSet II 起動前に、他のアプリケーションをすべて終了させてください。

1 「コントロールパネル」ウィンドウの「Intel(R) PROSet II」アイコンをダブルクリックします。

2 「Advanced」タブの「Setting」で「Locally Administered Address」をクリックし、「Value」に値を指定します。

「Value」には、「02」で始まる 16 進 12 桁を入力してください。グローバルアドレスに戻したい場合は「Restore Default」をクリックしてください。

□ Windows XP/2000 での Wake On LAN 機能

POINT

- ▶ Windows XP/2000でのWake On LAN機能は、スタンバイ状態や休止状態からの復帰に使用します。LAN 経由の電源 ON/OFF には PMAN (→ P.46) を使用してください。
- ▶ CELSIUS 330 の場合、BIOS 設定で「Power Management Setup」—「Wake Up by PCI Card」を Enabled (出荷時設定: Disabled) に設定する必要があります。
- ▶ CELSIUS 340 の場合、BIOS 設定で「Advanced」—「Power On/Off」—「Power On Source」が BIOS Controlled (出荷時設定: BIOS Controlled) の場合は、「Advanced」—「Power On/Off」—「Power On Source」—「LAN」を Enabled (出荷時設定: Disabled) に設定する必要があります。

ネットワーク環境下で Wake On LAN 機能を使用する場合は、次の設定を行ってください。

1 管理者権限を持ったユーザーアカウントでログオンします。

2 「マイコンピュータ」アイコンを右クリックし、「プロパティ」をクリックします。「システムのプロパティ」ダイアログボックスが表示されます。

3 「ハードウェア」タブをクリックし、「デバイスマネージャ」をクリックします。「デバイスマネージャ」ダイアログボックスが表示されます。

4 「ネットワークアダプタ」をダブルクリックします。

5 以下のアダプタを右クリックし、「プロパティ」をクリックします。

● CELSIUS 330

Intel(R) PRO/100 Network Connection

● CELSIUS 340

Intel(R) PRO/100 VM Network Connection

● CELSIUS 670

Intel(R) PRO/100 S Desktop Adapter

6 「電源の管理」タブをクリックします。

7 以下の2つの項目をチェックし、「OK」をクリックします。

- ・このデバイスで、コンピュータのスタンバイ状態を元に戻すことができるようになります。
- ・電力の節約のために、コンピュータでこのデバイスの電源をオフにできるようになります。

Wake On LAN機能を使用すると、ネットワーク状態を最新の情報に更新するためにコンピュータが定期的にアクティブになることがあります。そのため、不適切なときにコンピュータがアクティブになったりする可能性があります。そこで、省電力モードへの移行については、次の手順でタイム値を設定することをお勧めします。

1 管理者権限を持ったユーザー アカウントでログオンします。

2 「コントロールパネル」 ウィンドウの「電源オプション」アイコンをダブルクリックします。

「電源オプションのプロパティ」ダイアログボックスが表示されます。

3 「電源設定」タブの「システムスタンバイ」または「システム休止状態」を「20分後」以上に設定します。

POINT

- ▶ 設定値が20分より短いと、ワークステーション本体が省電力モードに移行していて他のコンピュータからの接続確認データを受信して、省電力モードから復帰してしまう場合があります。なるべく20分よりも長い値を設定してください。

ハードディスク

□ ハードディスクが使えない

- エラーメッセージは出ていますか？
『取扱説明書』をご覧ください。

□ 頻繁にフリーズするなど動作が不安定

- 次の手順でハードディスクのチェックを行ってください。
 1. 実行中のプログラムをすべて終了します。
 2. Windows XPでは、「スタート」ボタン→「マイコンピュータ」の順にクリックします。
Windows 2000/NTでは、「マイコンピュータ」アイコンをダブルクリックします。
 3. プログラムをインストールしてあるディスクを右クリックし、「プロパティ」をクリックします。
 4. 「ツール」タブをクリックし、「エラーチェック」の「チェックする」をクリックします。

5. 「チェックディスクのオプション」内の項目をチェックし、「開始」をクリックします。「ファイルシステムエラーを自動的に修復する」をチェックして C ドライブを検査する場合は、「次回のコンピュータの再起動時に、このディスクの検査を実行しますか?」または「次回のシステム再起動時に、このディスクの検査をスケジュールしますか?」と表示されます。「はい」をクリックすると、次回 Windows 起動時にエラーのチェックが行われます。それ以外の場合は、ディスクのチェックが開始されます。終了すると「ディスクの検査が完了しました。」と表示されます。
6. 「OK」をクリックします。

修復してもトラブルが頻繁に発生する場合は、リカバリしてください（→『取扱説明書』）。

□ NTFS 区画のドライブに CHKD SK コマンドを実行すると、エラーメッセージが表示される（Windows 2000）

- 次の手順で CHKD SK コマンドを行ってください。
 1. 「スタート」ボタン→「プログラム」→「アクセサリ」→「コマンドプロンプト」の順にクリックします。
 2. プロンプトから次のように入力し、【Enter】キーを押します。

`chkdsk /f [NTFS区画のドライブ]`

この手順を行った後は、オプションなしの CHKD SK コマンドを実行してもエラーメッセージは表示されません。

なお、ハードディスクのチェックは、CHKD SK コマンドではなく、ディスクのプロパティの「ツール」タブから行うことをお勧めします。

□ その他

- ディスクアドミニストレータがディスクにアクセスできるようにするために、初めてディスクアドミニストレータを起動したとき、ディスクに署名を書き込む必要があります。次の手順で署名を書き込んでください。
 1. ディスクアドミニストレータを起動します。
「ディスクアドミニストレータ」ダイアログボックスが表示されます。
 2. 「OK」をクリックします。
「確認」ウィンドウが表示されます。
 3. 「はい」をクリックします。
 ディスクに署名が書き込まれ、ディスクアドミニストレータでディスクにアクセスできるようになります。

CD-ROM

□ CD からデータの読み出しができない

- CD が正しくセットされていますか?
CD の表裏を間違えないよう、正しくセットしてください。
- CD が汚れていたり、水滴がついたりしていませんか?
汚れたり水滴がついたりしたときは、少し湿らせた布で中央から外側へ向かって拭いた後、乾いた布で拭き取ってください。
- CD が傷ついていたり、極端に反っていたりしませんか?
CD を交換してください。

- 規格外の CD を使用していませんか？

規格外の CD をお使いください。

□ CD が取り出せない

- ワークステーション本体は動作状態になっていますか？

本ワークステーションの内蔵 CD-ROM ドライブは電子ロックのため、ワークステーション本体が動作状態の場合のみ CD のセット／取り出しが可能です。

なお、なんらかの原因でトレーが出ない場合は、「マイコンピュータ」ウィンドウの CD-ROM アイコンを右クリックし、「取り出し」をクリックしてください。それでも出ない場合は、内蔵 CD-ROM ドライブユニット前面の CD-ROM 取り出しボタン横にある穴を、曲がりにくい針金（大きなクリップをのばしたものなど）でついてください。

フロッピーディスク

□ フロッピーディスクが使えない

- ディスクは正しくセットされていますか？

ディスクのシャッタのある側から、カシャッと音がするまでしっかりと差し込みます。

- ディスクはフォーマットしてありますか？

ディスクをフォーマットしてください。

- BIOS セットアップの項目を正しく設定していますか？（→「BIOS」）

- ディスクが書き込み禁止になっていませんか？

ディスクの書き込み禁止タブを書き込み可能な位置にしてください。

- 別のディスクは使用できますか？

別のディスクが使用できる場合、使用できないディスクは壊れている可能性があります。

- フロッピーディスクドライブのヘッドが汚れていませんか？

クリーニングフロッピーディスクでヘッドの汚れを落としてください（→「ハードウェア」－「フロッピーディスクドライブのお手入れ」）。

□ Windows XP でフロッピーディスクを 720KB でフォーマットできない

- Windows XP では、フロッピーディスクを 1.44MB 以外の容量にフォーマットできません。

光磁気ディスク

□ 光磁気ディスクドライブをスーパーフロッピー形式で使用したい

- 光磁気ディスクドライブの設定は必要ありません。光磁気ディスクをスーパーフロッピー形式でフォーマットするには、光磁気ディスク・ユーティリティを使用してください。詳細については、「ソフトウェア」－「ソフトウェア一覧」（→ P.36）をご覧ください。使用方法については、「ドライバーズ CD」の「¥Other¥Mo」内の各 OS フォルダ内にある readme.txt をご覧ください。

SCSI カード

□ SCSI カードを使用して SCSI 装置を接続したが、Windows から認識できない

- SCSI カードのドライバはインストールされていますか？次の手順に従って確認してください。
 - ・ Windows XP/2000 の場合
 1. Windows XP では、「スタート」ボタンをクリックし、「マイコンピュータ」アイコンを右クリックして「プロパティ」をクリックします。
Windows 2000 では、「マイコンピュータ」アイコンを右クリックし、「プロパティ」をクリックします。
「システムのプロパティ」ウィンドウが表示されます。
 2. 「ハードウェア」タブをクリックします。
 3. 「デバイスマネージャ」をクリックし、SCSI コントローラが登録されているか確認します。
登録されていない場合、「ハードウェア」タブの「ハードウェアの追加ウィザード」または「ハードウェアウィザード」をクリックし、SCSI カードの検出とドライバのインストールを行ってください。
 - ・ Windows NT の場合
 1. 「コントロールパネル」ウィンドウの「SCSI アダプタ」アイコンをダブルクリックし、SCSI コントローラが登録されているか確認します。
登録されていない場合、「ドライバ」タブの「追加」をクリックし SCSI カードのドライバをインストールしてください。
- SCSI 装置の電源は、ワークステーション本体の電源を入れる前に入れましたか？ワークステーション本体の電源より先に SCSI 装置の電源が入っていないと、正しく認識されません。

ディスプレイ

□ 画面に何も表示されない

- 省電力モードが設定されていませんか？
マウスを動かすか、どれかキーを押してください。
ワークステーション本体の電源ランプがオレンジ色に点灯 (CELSIUS 330/340) または緑色に点滅 (CELSIUS 670) している場合、ACPI モードの高度 (ACPI S3) / 標準 (ACPI S1) に移行している可能性があります。ワークステーション本体の電源スイッチを押してください。電源スイッチを押してから 30 秒以上たっても画面に何も表示されない場合、電源スイッチを 4 秒以上押し続け、電源を一度切ってください。

POINT

- ▶ USB キーボード (CELSIUS 340 の場合)、USB マウス (CELSIUS 340 の場合)、時刻指定、LAN、モデム着信 (RingIndicator 信号)、PCI 拡張カード (PME 信号) によって、スタンバイ (ACPI モード高度と標準) から復帰した場合、システムはリジュームしますが、画面が表示されません。マウスかキーボードの入力によって画面が表示されます。電源を切る前に、マウスを動かすかどれかキーを押して、ワークステーションの状態を確認してください。
- 「起動・終了時のトラブル」(→ P.61) もご覧ください。

□ディスプレイの表示が見にくい

- ディスプレイは見やすい角度になっていませんか?
ディスプレイの角度を調節してください。
- 明るさなどを調節しましたか?
明るさをライトネスボリュームで調節してください。

□表示が乱れる

- Windows の画面が正常に表示されない場合は、次の操作を行ってください。
 - Windows XP/2000 の場合
「ソフトウェア」－「ドライバ」(→ P.49) をご覧になり、ディスプレイドライバを再インストールしてください。
Windows が起動しないときは、Safe モードで起動してからインストールを行ってください (→ P.58)。
 - Windows NT の場合
「ソフトウェア」－「ドライバ」(→ P.49) をご覧になり、ディスプレイドライバを再インストールしてください。
Windows が起動しないときは、VGA モードで起動してからインストールを行ってください (→ P.58)。
- アプリケーションを使用中に、アイコンやウィンドウの一部が画面に残ってしまった場合は、次の手順でウィンドウの再表示を行ってください。
 1. ウィンドウの右上にある最小化ボタンをクリックし、アプリケーションを最小化します。
 2. タスクバーに最小化されたアプリケーションのボタンをクリックします。

POINT

- ▶ 次のような場合に表示が乱れることがあります、動作上は問題ありません。
 - Windows 起動時および画面の切り替え時
 - DirectX を使用した一部のアプリケーション使用時

- 解像度を変更した場合、一部のアプリケーションでウィンドウが画面からはみ出することがあります。この場合は、ウィンドウをドラッグして正しい位置に移動するか、解像度を元に戻してください。
- お使いになるディスプレイや、解像度の設定によっては、CAD 系アプリケーションなどで縦線と横線の太さが異なって見えることがあります。設定を調整して使用してください。なお、正常に表示されない場合は、色数を 256 色または 16,777,216 色に設定してください。
- Windows NT で MS-IME97 以外の日本語入力システムが組み込まれている場合、一度ログオフしてから再度ログオンすると、画面に日本語入力システムのツールバーが 2 つ表示されることがあります。標準に設定されていない日本語入力システム（【漢字】キーを押しても、アクティブにならない）を操作しなければ問題ありませんが、操作を行った場合、画面上にウィンドウの跡が残ることがあります。この場合は、Windows NT を再起動してください。
- 動画を再生するときは、ディスプレイの省電力機能やシステムスタンバイおよびシステム休止状態の設定は行わないでください。
- お使いのビデオカードによっては、画面のプロパティにおいて、一部文字化けがありますが、動作には支障はありません。
- OpenGL を使用したスクリーンセーバーが起動しているときには、スタンバイ状態およびシステム休止状態への移行はできません。

- 近くにテレビなどの強い磁界が発生するものはありませんか？

強い磁界が発生するものは、ディスプレイやワークステーション本体から離して置いてください。（→P.54）。

□ 画面の両サイドが欠ける

- 使用しているディスプレイの調整ボタンで、水平画面サイズの調整を行ってください。

□ リカバリまたは再インストール後、ディスプレイドライバをインストールし直してもディスプレイが自動的に設定されない

- 次の手順で設定し直してください。

- ・ Windows XP の場合

1. 管理者権限を持ったユーザーとしてログオンします。
2. 「ドライバーズ CD」をセットします。

POINT

▶ 「Windows が実行する動作を選んでください」と表示されたら、「キャンセル」をクリックしてください。

3. デスクトップで右クリックし、「プロパティ」をクリックします。
「画面のプロパティ」ウィンドウが表示されます。
4. 「設定」タブの「詳細設定」をクリックします。
5. 「モニタ」タブの「プロパティ」をクリックします。
6. 「ドライバ」タブの「ドライバの更新」をクリックします。
「ハードウェアの更新ウィザード」ウィンドウが表示されます。
7. 「一覧または特定の場所からインストールする（詳細）」をクリックし、「次へ」をクリックします。
8. 「リムーバブルメディア（フロッピー、CD-ROM など）を検索」のみをチェックし、「次へ」をクリックします。
9. 「次へ」をクリックします。

POINT

▶ 「.. インストールしようとしているソフトウェアは、Windows XP との互換性を検証する Windows ロゴテストに合格していません。」と表示されたら、「続行」をクリックしてください。

「ハードウェアの更新ウィザードの完了」ウィンドウが表示されます。

10. 「完了」をクリックします。

11. すべてのウィンドウを閉じます。

- ・ Windows 2000 の場合

1. 管理者権限を持ったユーザーとしてログオンします。
2. 「ドライバーズ CD」をセットします。
3. デスクトップで右クリックし、「プロパティ」をクリックします。
「画面のプロパティ」ウィンドウが表示されます。
4. 「設定」タブの「詳細」をクリックします。
5. 「モニタ」タブの「プロパティ」をクリックします。
6. 「ドライバ」タブの「ドライバの更新」をクリックします。
「デバイスドライバのアップグレードウィザード」ウィンドウが表示されます。

7. 「次へ」をクリックします。
8. 「デバイスに最適なドライバを検索する（推奨）」をクリックし、「次へ」をクリックします。
9. 「CD-ROM ドライブ」のみをチェックし、「次へ」をクリックします。
10. 「次へ」をクリックします。

POINT

- ▶ 「デジタル署名が見つかりませんでした」と表示されたら、「はい」をクリックしてください。
 「デバイスドライバのアップグレードウィザードの完了」ウィンドウが表示されます。
11. 「完了」をクリックします。
 12. すべてのウィンドウを閉じます。

□ その他

- グラフィックの表示性能は、環境設定および使用するアプリケーションによって異なります。特に3Dグラフィックスを使用する場合は、大量のメモリを消費するため、性能が低下することがあります。
- Windows NTでは、DirectXのサポートは DirectX3 の DirectDraw のみです。

サウンド

□ スピーカーから音が出ない、音が小さい、または音が割れる

- 外付けスピーカーに関して次の項目を確認してください。
 - ・ワクステーション本体と正しく接続されていますか？
 - ・スピーカーの電源ケーブルは接続されていますか？
 - ・スピーカーの電源スイッチは入っていますか？
 - ・音量ボリュームは正しく調節されていますか？
- OSの「音量の調整」または「ボリュームコントロール」などの設定（ミュートや音量など）を確認してください。
- 音が割れる場合は音量を小さくしてください。
- ハードウェアの競合が起こっていませんか？（→P.60）
- サウンドドライバが正しくインストールされていますか？必要に応じて、「ドライバーズCD」内の「Indexcd.htm」でお使いのサウンドドライバのフォルダ名を確認し、フォルダ内の「Install.txt」または「Readme.txt」をご覧になり、再インストールしてください。

キーボード

□ キーボードから入力した文字が表示されない

- キーボードは正しく接続されていますか？

□ 押したキーと違う文字が入力される

- 【NumLock】キーや【CapsLock】キーが有効になつていませんか？

キーボード上のインジケータで、【NumLock】キーや【CapsLock】キーが有効になつていなかつ確認してください。

- 「コントロールパネル」の「キーボード」の設定は正しいですか？

次の手順で確認してください。

- Windows XP の場合

1. 「スタート」ボタン→「コントロールパネル」の順にクリックします。

「コントロールパネル」ウィンドウが表示されます。

2. 「プリンタとその他のハードウェア」をクリックします。

3. 「キーボード」アイコンをクリックします。

「キーボードのプロパティ」ウィンドウが表示されます。

4. 「ハードウェア」タブの「デバイス」で、正しい日本語キーボードが設定されているか確認します。

- Windows 2000/NT の場合

1. 「スタート」ボタン→「設定」→「コントロールパネル」の順にクリックします。

「コントロールパネル」ウィンドウが表示されます。

2. 「キーボード」アイコンをダブルクリックします。

「キーボードのプロパティ」ウィンドウが表示されます。

3. 次のウィンドウで、正しい日本語IMEが設定されているか確認します。

Windows 2000 の場合：「入力ロケール」タブの「インストールされている入力ロケール」

Windows NT の場合：「言語」タブの「インストールされている言語とレイアウト」

- Windows NT 起動時にキーボードから入力をを行うと、イベントビューアに「ソース:i8042prt/ イベントID:19」のエラーが記載されることがあります。しかし、本ワークステーションをお使いになるうえで問題はありません。

- Windows XP 起動時にイベントログビューアに「ソース:i8042prt/ イベントID:17」、「ソース:i8042prt/ イベントID:19」、「ソース:i8042prt/ イベントID:20」の3つのエラーが記載されることがあります。しかし、本ワークステーションをお使いになる上で、問題はありません。

マウス

□ マウスカーソルが動かない

- マウスは正しく接続されていますか？

- ボールやローラーなどにゴミが付いていませんか？

マウス内部をクリーニングしてください。

□ マウスが使えないため、Windows を終了できない

- キーボードを使用してWindowsを終了してください（→P.61）。

- マウスの中ボタンが動作しない

標準添付されている3ボタンマウスの中ボタンは、3ボタン対応アプリケーションを使用しているときにのみ動作します。通常は中ボタンは機能しません。

プリンタ

□ プリンタを使用できない

- 次の点を確認してください。
 - ・プリンタケーブルは正しく接続されていますか？
 - ・ケーブルのコネクタやケーブルは損傷していませんか？
 - ・プリンタの電源は入っていますか？
 - ・プリンタドライバは正しくインストールされていますか？プリンタのマニュアルをご覧になり、再インストールしてください。
 - ・ネットワークプリンタの場合、ネットワーク管理者の指示に従って設定を行いましたか？
 - ・ネットワークプリンタの場合、ネットワーク自体へのアクセスはできていますか？（→ P.67）

□ FMLBP シリーズ、FMPR シリーズをお使いの場合

デバイスフォントの白色を使用した場合、印刷結果が画面と異なる場合があります。白色で印刷する場合は、デバイスフォント以外で印刷してください。

□ FMLBP225PS、FMLBP211PSをお使いの場合

- 「ドキュメント」ダイアログボックスの「ドキュメントのオプション」内の「プリンタの機能」にある「標準に戻す」は機能しません（クリックしても、変更前の設定状態には戻りません）。
- 「ドキュメント」ダイアログボックスの「ハーフトーンカラーの調整」で「明るさ」や「コントラスト」などを調整しても、印刷には反映されません。
- 用紙の種類を「A4 横」のような「××横」に設定しても、正しく印刷できません。このようなデータを印刷する場合は、用紙の種類で「A4」印刷の向きを「横」のようにして印刷してください。

□ 任意の用紙サイズを設定する場合

富士通 FM シリーズ用シリアルプリンタでフォームを使用する場合、使用できるフォームのサイズはそれぞれのドライバによって次の範囲となっています。この範囲外のものは使用できません。なお、下記のシリアルプリンタのすべてについて動作を保証するものではありません。

● 用紙サイズの設定

プリンタの「ファイル」メニュー→「サーバのプロパティ」の順にクリックし、「用紙」タブの「新しい用紙を作成する」をチェックして作成します。任意の用紙サイズを設定できます。

詳細については、Windows NT のマニュアルおよびオンラインヘルプをご覧ください。

幅:50 ~ 345.4mm(1.79 ~ 13.6 インチ) 高さ:50 ~ 420.0mm(1.79 ~ 16.5 インチ) のドライバ
(136 枚プリンタ)

「FUJITSU FMPR 180」	「FUJITSU FMPR 180 (Color)」
「FUJITSU FMPR-353G2」	「FUJITSU FMPR-353A2」
「FUJITSU FMPR-361」	「FUJITSU FMPR-372」
「FUJITSU FMPR-671」	「FUJITSU FMPR-654」
「FUJITSU FMPR-359F1」	「FUJITSU FMPR-455」
「FUJITSU FMPR-456」	「FUJITSU FMPR-371A」
「FUJITSU FMPR-374」	「FUJITSU FMPR-366 (Monochrome)」
「FUJITSU FMPR-373 (Color)」	「FUJITSU FMPR-366 (Color)」
「FUJITSU FMLP-351」	「FUJITSU FMPR-373 (Monochrome)」
「FUJITSU FMPR-672」	

幅:50 ~ 203.2mm(1.79 ~ 8 インチ) 高さ:50 ~ 420.0mm(1.79 ~ 16.5 インチ) のドライバ
(80 枚プリンタ)

「FUJITSU FMPR-302G2」	「FUJITSU FMPR-302A2」
「FUJITSU FMPR-204B」	「FUJITSU FMPR-204W」
「FUJITSU FMPR-101W」	「FUJITSU FMPR-101B」
「FUJITSU FMPR-102G」	「FUJITSU FMPR-601」
「FUJITSU FMPR-303G」	「FUJITSU FMJP-101G」
「FUJITSU FMPR-221G」	

幅:50 ~ 420.0mm(1.79 ~ 16.5 インチ) 高さ:50 ~ 420.0mm(1.79 ~ 16.5 インチ) のドライバ
(136 枚プリンタ)

「FUJITSU FMPR 360」	「FUJITSU FMPR 360 (Color)」
「FUJITSU FMJP-211」	

幅:25.4 ~ 345.4mm(1 ~ 13.6 インチ) 高さ:25.4 ~ 558.8mm(1 ~ 22 インチ) のドライバ
(ESC/P シーケンス)

「FUJITSU ESC/P」	「FUJITSU FMPR-375E」
「FUJITSU FMLP-371E」	「FUJITSU FMP-PR121G」

その他

□ 使用中の製品に関する最新情報を知りたい

- 製品出荷後に判明した問題などの最新情報は、弊社の富士通パソコン情報サイト FMWORLD.NET (<http://www.fmworld.net/>) で公開しています。必要に応じてご覧ください。

6 リカバリ／再インストール

ここでは、リカバリまたは再インストールに関する補足情報を説明します。リカバリ方法または再インストール方法については、『取扱説明書』をご覧ください。

リカバリ／再インストールを実行する前に

■ 前回正常起動時の構成に戻す

前回正常起動時の構成に戻せるか確認してください（→ P.57）。

■ Safe モード／VGA モードでの起動

Safe モードまたは VGA モードで起動できるか確認してください（→ P.58）。

■ ドライバのインストール

なんらかの理由で、ドライバが正しくインストールされなかつたり、正常に動作しなかつたりした場合は、「ソフトウェア」－「ドライバ」（→ P.49）をご覧になり、ドライバを再インストールしてください。

リカバリ／再インストール後も状態が改善されない場合は

リカバリまたは再インストールを行っても状態が改善されない場合は、弊社担当営業員または担当保守員に連絡してください。

7 それでも解決できないときは

どうしても解決できない場合は、『取扱説明書』で各種窓口の連絡先をご確認のうえ、お問い合わせください。
ここでは、『取扱説明書』に記載されていない、ソフトウェア関連の連絡先を記載しています。

ソフトウェアのお問い合わせ一覧

本ワークステーションに添付されているソフトウェアの内容については、次の連絡先にお問い合わせください。なお、記載の情報は、2002年6月現在のものです。電話番号などが変更されている場合は、弊社担当営業員または担当保守員へお問い合わせください。

● @nifty でインターネット

- ・入会案内
ニフティ株式会社 @nifty サービスセンター
9:00～21:00（※ビルの電源工事などによりお休みさせていただく場合があります。）
電話：0120-816-042（携帯・PHS・海外の場合：
03-5753-2374）
E-mail : feedback@nifty.com
URL : <http://www.nifty.com/support/madoguchi/index.htm>
- ・テクニカルサポート／@nifty サービス内容案内
ニフティ株式会社 @nifty サービスセンター
9:00～21:00（※ビルの電源工事などによりお休みさせていただく場合があります。）
電話：0120-818-275（携帯・PHS・海外の場合：
03-5753-2373）
E-mail : feedback@nifty.com
URL : <http://www.nifty.com/support/madoguchi/index.htm>

● Norton AntiVirus 2002

- ・株式会社シマンテック
シマンテックテクニカルサポートセンター
ただし上記サポートセンターをご利用いただくためには以下のシマンテックホームページにてカスタマーIDの取得が必要です。
ホームページ : <http://shop.symantec.co.jp/oem/fujitsu/2002/>
サポートサイト : <http://www.symantec.com/region/jp/support/index.html>
電話 : 03-3476-1118
10:00～12:00、13:00～17:00（土・日・祝日年末年始を除く）
FAX : 03-3477-1118

● Adobe Acrobat Reader 5.0

- ソフトウェア提供会社様より無償で提供されている製品のため、ユーザーサポートはございません。ご了承ください。

● アプリケーション（カスタムメイドオプション）

- 各アプリケーションのマニュアルをご覧ください。

● その他 CELSIUS シリーズの技術的なご質問・ご相談

弊社担当営業員または担当保守員

本ソフトウェア製品の中には第三者のソフトウェア製品が含まれています。お客様の本ソフトウェア製品の使用開始については、お客様が弊社の「ご使用条件」に同意された時点とし、第三者のソフトウェア製品についても同時に使用開始とさせていただきます。

なお、第三者のソフトウェアについては、製品の中に特に記載された契約条件がある場合には、その契約条件にしたがい取り扱われるものとします。

Memo

索引

記号

- @nifty でインターネット 36, 47
- 3 モードフロッピーディスク
ドライバ 36, 43

A

- ACPI 25
- Acrobat Reader 36, 42
- AntiVirus 36, 45, 55

D

- DirectX8.1 36, 42
- DMA の設定 18

F

- FAT16 23
- FAT32 23
- FM-Menu 36, 47

I

- Internet Explorer 5.01 SP2 36, 41
- Internet Explorer 6.0 36, 41

L

- LAN 15

M

- Microsoft IME2000 36, 42
- Microsoft IME スタンダード
2002 36, 42
- MS-IME97 36, 42

N

- NTFS 23

O

- OS 追加プログラム 36, 45

P

- Power Management for
Windows 36, 46

R

- RecordNow 36, 45

S

- Safe モード 58

V

- VGA モード 58

W

- Wake On LAN 機能 71
- Windows 2000 36, 37
 - Service Pack2 37
- Windows NT 36
 - Service Pack6a 38
- Windows XP Professional 36

か行

- 仮想メモリ 21
- 休止状態 25
 - の留意事項 25
- 競合 60

さ行

- 省電力 25
- スタンバイ 25
 - の留意事項 25
- セキュリティ ロールアップ
パッケージ 36
- セキュリティツールキット 36, 39
- セットアップ用フロッピーディスクの
コピー 10

た行

- デュアルディスプレイ機能 13
- 電源切断ユーティリティ 36, 41
- ドライブバーズ CD 49, 50

は行

- バックアップディスク 50
- 光磁気ディスクイジェクトツール .. 36, 44
- 光磁気ディスクセキュリティ
- ツール 36, 44
- 光磁気ディスク・ユーティリティ .. 36, 43
- ファイルシステム 23
- ページングファイル 21

CELSIUS 330/340/670

ソフトウェアガイド
B5FH-6101-01-00

発行日 2002年6月
発行責任 富士通株式会社

- このマニュアルの内容は、改善のため事前連絡なしに変更することがあります。
- このマニュアルに記載されたデータの使用に起因する第三者の特許権およびその他の権利の侵害については、当社はその責を負いません。
- 無断転載を禁じます。